

物性研だより

第51巻
第1号

2011年4月

目次

- 1 所長再任にあたって・・・・・・・・・・家 泰弘
- 2 物性研に着任して・・・・・・・・・・左右田 稔
- 3 石井 順久
- 4 外国人客員所員を経験して・・・・・・・・・・VEKHTER, Ilya
- 6 物性研究所談話会
- 7 物性研究所セミナー
- 物性研ニュース
- 13 ○ 人事異動
- 16 ○ 東京大学物性研究所教員公募について
- 19 ○ 平成23年度前期外来研究員一覧
- 33 ○ 平成23年度前期スーパーコンピュータ共同利用採択課題一覧
- 38 ○ 平成23年度中性子回折装置共同利用採択課題一覧
- 50 ○ 平成23年度後期共同利用の公募について
- 51 ○ 平成22年度外部資金の受入について
- その他
- 52 ○ 第56回物性若手夏の学校
- 編集後記
- 物性研だよりの講読継続について



東京大学物性研究所

Copyright ©2009 Institute for Solid State Physics,
The University of Tokyo. All rights Reserved.

ISSN 0385-9843

所長再任にあたって

家 泰弘

2008年4月号の物性研だよりに「所長就任にあたって」のご挨拶を書いてから、早いもので3年が経過しました。昨年12月の所員会での選挙の結果、再任ということになりましたので、あと2年間所長を務めさせていただくことになりました。改めて宜しく申し上げます。副所長は、この3年間を支えてくださった八木健彦先生に代わって、4月からは上田寛先生をお願いしています。

所長再任の挨拶原稿を書こうとしていた3月中旬、11日の午後2時46分に東北地方太平洋沖大地震が発生しました。そのとき私は所長室に居りましたが、頑丈に作られている物性研研究棟がこれほどまでに揺れるものと驚愕し、茫然としておりました。物性研の関係者に限って言えば東海分室や筑波分室も含めて人的被害はありませんでした。物性研OB/OGの方々も皆さんご無事とうかがっております。しかし、東北・北関東地方の地震・津波被害は未曾有のものであり、日毎に増えて行く犠牲者の数や被災現地の映像を見るにつけ心が痛みます。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。また、これを書いている時点では福島第一原子力発電所において予断を許さない状況が続いています。事態収拾に懸命の努力を続けておられる方々に深く敬意を表する次第です。

柏地区では、6階の図書室の書架から製本済み学術雑誌が大量に落下するなどの被害が出ましたが、概して物的損害は(少なくとも外見上は)大きくない模様です。私が嬉しく思ったことの1つは、激しい揺れであったにもかかわらずボンベや薬品関連の事故が発生しなかったことです。安全衛生チームが(研究室には煙たがられても)定期的にパトロールを実施して防災チェックと指導を徹底してくれた賜物と感謝しています。柏地区の被害は小さかったのですが、東海分室(J-PARCとJRR-3)や筑波分室(PF)の設備には甚大な損壊が発生しました。この稿を書いている時点では、加速器本体も含めた被害の全貌は未だ把握できておらず、詳しい調査の結果を待つ状況です。

大学の使命である研究教育活動を停滞させてはならないので、困難な状況の中でわれわれにできることを一つずつやっけて行くしかありません。東海と筑波は当面は被害調査と復旧に注力することになります。播磨分室(SPring-8)に関しては支障ないものと思われまふ。柏地区では電力事情の逼迫が大問題となっています。ご承知のように東京電力の電力供給能力に大きな毀損が生じており、消費電力の大幅削減が求められるとともに一部では計画停電も実施されています。電力供給能力は今後1~2ヶ月でいくぶん回復してそれなりのレベルに落ち着くと思われまふが、電力供給不足が長期にわたって続くことを前提として活動計画を立てて行くことになります。このような状況に置かれてみると、研究活動におけるエネルギー効率といった点にこれまで無関心であったことが反省されます。より精選したインプットから、より高価値のアウトプットを出すようなやり方へと智恵を絞ることが求められているのだと思ひます。

これから2年の所長任期の間にごどこまでできるかわかりませんが、教職員・学生の皆さんとともに全力を尽くす所存です。上に述べたように、単に復旧を目指すのではなく、新たなやり方を工夫して行く必要があるでしょう。また、被災地域の大学等の研究者・学生に対してどのような支援が可能か検討し、関連分野の共同利用・共同研究拠点や物性グループなども連携して活動して行きたいと考えております。物性研や東大だけでは対処し切れない課題も多々あると予想されます。物性研を囲むコミュニティ(greater ISSP)からの声とサポートを是非ともお願いいたします。

平成23年4月1日

物性研に着任して

中性子科学研究施設 左右田 稔

2011年1月1日付けで中性子科学研究施設・益田研究室の助教として着任しました左右田稔(そうだ むのる)と申します。この場をお借りして、簡単に自己紹介をさせていただきたいと思います。私は2007年3月に名古屋大学で博士号を取得した後、物性研究所・廣田研究室に特任研究員として1年間在籍しました。その後、廣田先生の転任に伴い私も大阪大学に移りましたが、今年1月より再び物性研究所で研究することになりました。

一方で物性研究所・中性子科学研究施設における共同利用という形では、大学院生のころより物性研究所に大変お世話になっております。私は、これまで主に中性子散乱という手法を用いて、固体物理の研究を行ってきました。茨城県東海村において物性研究所等が管理する分光器を用いて中性子実験を行ってきましたが、1~2か月に1度は東海村に行き、中性子実験とおいしい魚料理を堪能しておりました。最近、物性研究所が管理する偏極中性子散乱装置 PONTA を使用して、磁性と誘電性の関係に注目した研究を重点的にやっております。具体的には、中性子散乱実験によって磁気構造や螺旋ヘリシティ、磁気相関長などを観測し、特異な磁気構造によって誘起される強誘電性(マルチフェロイックス)の起源解明、磁性イオンをもつリラクサー誘電体における超常磁性の解明などを行ってきました。

私が配属されました益田研究室においても、中性子散乱を用いて磁性を研究するという大きな枠組みは共通しております。しかし、益田研究室における磁性研究の幅は非常に広く、私が今までに研究経験のある幾何学的フラストレーション系、低次元磁性体の分野だけでなく、酸素超結晶の磁性研究なども行っており、非常に興味深いと感じております。結晶合成や基礎物性測定、中性子散乱実験などを行い、固体磁性の起源を解明していくこととなりますが、JRR-3 だけでなく今まで未経験だった J-PARC や ORNL など様々な施設での中性子散乱実験を通して、私自身の研究の幅も大きく広げていきたいと考えております。

中性子散乱を用いた固体物理研究を行う際、私自身は結晶作成にもかなり重点を置いており、単結晶作成は研究の楽しみの一つでもあります。学生時代より単結晶作成が好きで、できる限り自分で作成した大型単結晶を用いて中性子実験で行ってきました。私は、基本的には茨城県東海村に常駐しておりますが、中性子のビームが出ていない期間は、柏キャンパスで結晶作成などを積極的に行っていこうと考えております。柏キャンパスでお会いした際は、何卒よろしくご願ひ致します。また、中性子科学研究施設の職員になるということで、研究だけではなく中性子装置・施設管理などの新たな責任も生まれてきます。物性研究所の特色を生かした幅広い研究を行い、独創的な研究領域の開拓を目指すとともに、中性子科学研究施設の共同利用にも貢献できるように努力していきますので、どうぞ、ご指導ご鞭撻のほどよろしくご願ひいたします。

物性研に着任して

先端分光研究部門 板谷研 助教 石井 順久

この度 2011 年 1 月 1 日付で、物性研先端分光部門板谷研に助教として着任いたしました石井順久(のぶひさ)と申します。これからよろしくお願ひ申し上げます。紙面をお借りしまして、経歴の紹介ならび挨拶をさせていただきます。

学部生並びに修士課程においては東京大学理学部物理学系理学系研究科物理学専攻の小林孝嘉先生の元で当時最先端の超高速 5 フェムト秒 (5×10^{-15} second) レーザーを用いて分子振動の実時間分光を行っていました。電子基底状態における炭素—炭素間 2 重 3 重結合の振動を励起し実時間分光に成功しました。小林研では最先端の分光用光源の開発の大切さを感じました。

このため博士課程ではレーザー装置開発を行いたいと思い、レーザー開発で有名なウィーン工科大学に移り、フェレンツ・クラウツ先生の指導の下最先端のレーザーの装置開発に携わりました。オーストリアにある研究室ではありましたが、クラウツ先生はハンガリー出身でオーストリア国籍も持っており、研究室にはヨーロッパ中心に 12 カ国以上の国から人々が来て、多国籍な研究生活を行っていました。ウィーンを含め、ヨーロッパでは、実験上のみならず、生活においても習慣が日本と異なることが多々存在し、非常に面白い経験でありました。その後クラウツ先生がミュンヘンにあるマックスプランク量子光学研究所に移ることになったので、私もミュンヘンに移動し、レーザー開発ならびに高強度物理への応用研究を続けました。ウィーンからミュンヘンに研究室の機材を移動したときの経験は非常に印象的でありました。移動の前日まで実験を行っており、移設のトラックが来る 20 時間前から実験装置の整理を始めるといっためまぐるしい状況でしたが、無事に移動できたことは非常に驚きであったことを覚えております。ミュンヘンで 2 年半を過ごし、ルートビヒ・マクシミリアン大学(ミュンヘン大学)で理学博士の学位を取得の後に、2007 年 1 月から物性研の渡部俊太郎先生のもとで、最初は物性研特任研究員、のちに学振の PD として研究に携わりました。渡部研では高エネルギーレーザー開発と共に高強度物理の実験に従事しまして、水の窓領域の高次高調波とアト秒パルス発生プロジェクトにおいて研究を行いました。渡部先生が退官なされた後に、板谷研究室の特任研究員を経て、このたび助教として着任させていただきました。

研究経歴全般にわたって、超高速レーザーパルス発生装置ならびにそれを用いた分光計測を専門としてきましたが、この経験を生かして板谷研究室での高エネルギー超短パルスレーザー開発とそれを用いた分光の研究に貢献していきたいと考えております。板谷研究室においては現在のレーザーシステムの拡張である、近赤外高エネルギー超短パルスレーザー開発ならびにそれを用いたコヒーレント極端紫外光発生とその応用(アト秒計測、配向分子からの高次高調波発生、分子軌道の画像化)、また、より挑戦的な計画である、赤外線高エネルギー超短パルスレーザー装置の開発とコヒーレント軟 X 線発生実験を行っていきたくております。また物性研の他研究室と合同での光源開発等も非常に興味を持っており、貢献することが出来るようなプロジェクトがありましたら、積極的に関わっていきたくて考えております。

外国人客員所員を経験して

VEKHTER, Ilya

Sabbatical thoughts: ISSP, Louisiana politics, and the creative pursuits
Department of Physics and Astronomy, Louisiana State University, Baton Rouge,
LA 70803-4001, USA

My governor thinks I should not have come to ISSP. Yes, it is true: last October the governor of Louisiana declared to the media that the faculty should not be taking sabbaticals to do their “so called research” instead of teaching, and that it would save money for the state deep in the budget crisis. Apart from its mathematical and budgetary absurdity, this statement shows a profound lack of understanding of what it is that scientists do, why sabbaticals are important, and how we choose places to spend them. Research is a creative endeavor: right conditions to focus, access to resources, opportunities for exchange with world class researchers all combine with the social and cultural interactions to create the elusive and intangible, but in the end very real atmosphere that helps generate new ideas, pursue promising leads, and identify exciting results. I wanted to come to ISSP for the sabbatical thinking that it is a unique place where all the different facets of what makes a sabbatical both enjoyable and successful may combine - and the experience exceeded my expectations.

My very gracious host, Professor Toshiro Sakakibara, has made the visit possible, and both he and the ILO staff, Akiko Kameda and Mihoko Kubo, worked tirelessly in the months leading to my arrival to ensure that I had the smoothest possible arrival and would find everything ready. Both Professor Sakakibara and his entire group made me feel instantly welcomed as a part of both their research effort and the common activities, and I deeply appreciated how much effort they put into making my stay as enjoyable and productive as possible. I feel privileged to have been able to spend a part of my sabbatical with them, and would be delighted to reciprocate their hospitality one day. I do feel somewhat guilty that the main project that we attempted turned out to be more difficult than what I had anticipated and was not completed, but with that comes excitement that it will produce interesting results when I finish it. I have learned very much about both physics and Japan from Sakakibara san, Kittaka san, and everyone in the group, and I should have learned some traditional recipes from Mitamura san whose cooking was a large part of what made our parties so cheerful. Yumi Hishinuma has been a marvel of efficiency in helping me whenever I needed it.

Satoru Nakatsuji and his group have welcomed me with open arms and showed many results which I found very impressive and interesting, and often puzzling. They stimulated much of my continued thinking about new subjects, although in our discussions I had to say “I don’t know” more times than an average theorist normally does in a year. I hope one day to be able to answer at least some of the deep questions they posed. Masashi Takigawa and Kazuo Ueda have been very patient and took time to explain their recent work and its implications.

Many other researchers from everywhere in Japan have been very hospitable and invited me to give talks at their universities and research institutes. I have covered rather thoroughly the area between Niigata and Okayama, giving the talks there as well as in Kyoto, Nagoya, Tsukuba, and RIKEN. During my stay I saw the temples of Kamakura and Kyoto, visited the old areas of Kanazawa, hiked in Kamikochi (in heavy rain), spent a night in a gassho zukuri house in Shirakawago, walked between Tsumago and Magome in Kiso-ji, and saw the Matsumoto castle. I enjoyed ukiyo-e prints at several museums, and also wandered with the crowds at Harajuku, appreciating

the variety and vibrancy of the experiences. I have been to Japan before at conferences in big cities, but this was the first time when I was able to delve deeper into history outside of the major centers, and it has been illuminating and enriching.

I have tried the patience of Kameda san and Kubo san with a multitude of naive and ignorant questions about all aspects of life in Kashiwa (and much more), and would have been truly lost without their everyday help that was invariably provided with a smile and an open heart. They were my willing chauffeurs, my efficient bank representatives, my helpful translators, and my knowledgeable travel agents. They have anticipated many of my requests before I even asked (I inevitably concluded that all the visiting professors are very predictable), and have brightened every day that I talked to them. The tea ceremony lesson which they organized for Prof. Rogacki and myself remains one of the most vivid and treasured memories of my stay in Japan. It is thanks to them and to the entire group of Sakakibara san that I had one of the most memorable birthdays of recent years while in Kashiwa. I owe them a debt of everlasting gratitude.

One of the strengths of the ISSP that I observed is in the continuity of its traditions. The winter holiday concert that included everyone from students to the Director of Institute, with participation of former students such as Koichi Izawa, whom I have known since we both were very junior, and former staff such as Naomi Habu, who has volunteered her help during the tea ceremony organized by Kameda san, testifies to the uninterrupted thread that creates such a unique research and cultural environment.

And this is what the governor of Louisiana does not understand. We could exchange files with data, we could exchange emails with ideas, but this would be poor substitute for experiencing and fully participating in common projects while sharing in a different lifestyle and culture. This latter helps us to think differently, to appreciate and understand much deeper new viewpoints, and to greatly enlarge our experience and horizons. All of it together was an enriching experience. I feel lucky that I had this opportunity, and I hope to be back soon.

物性研究所談話会

標題：透明酸化物の機能探索から拓けたフロンティア:ガラスから透明トランジスタ、セメントから透明金属、鉄から高温超電導

日時：2011年2月24日(木) 午後4時～

場所：物性研究所本館6階 大講義室(A632)

講師：細野 秀雄

所属：東京工業大学 フロンティア研究機構&応用セラミックス研究所

要旨：

鉄、セメント、ガラスはビルに代表される近代建築を担う3大構造材料である。講演者らは、伝統的な窯業製品の主原料である、透明酸化物の機能開拓を1994年から開始して現在に至っている。これまでの主な成果は、副題のようにまとめられる。

薄膜状の透明なガラスから次世代の薄型ディスプレイを駆動できる高性能な薄膜トランジスタ(TFT)が、セメントの構成成分から透明金属が、そして最も相性が悪いと信じられてきた鉄の化合物で高温超電導体を実現した。透明アモルファス酸化物TFTは内外の企業群によってディスプレイ類の駆動用バックプレーンへ実用化されようとしている。セメントからできた透明金属は、仕事関数がアルカリ金属並みに小さく、かつ化学的に安定というユニークな物性を活かして、高効率な冷陰極材料として照明関係への応用が熱心に検討されている。鉄ニクタイト系超電導体は2008年2月の発表後、これまでに2000報以上の論文が既に発表され、世界各国で特別プロジェクトが発足し、熱いレースが繰り広げられている。Tcの最高値は56Kで、これは金属系を抜いて銅酸化物系に次いでいる。銅酸化物以上に多彩な物質群が見出されており、特性的には臨界磁場が高く、結晶方位による異方性が小さいという応用上のメリットが見出されている。本講演では、上記の拙い経験を通して物質・材料研究の醍醐味について講演する。

【講師紹介】 細野秀雄先生は、数々の新材料物質の発見により世界的に著名な研究者です。日本セラミックス協会賞(1986年、1999年)、Otto-Schott研究賞(1994年)、W. H. Zachariasen賞(1998年)、紫綬褒章(2009年)等の国内外の多数の賞を受賞され、また今年一月にも朝日賞を受賞されました。また、テレビ番組NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」への出演等を通じ、研究への情熱を一般社会にも伝えていらっしゃいます。細野先生のお話を生で伺える貴重な機会ですので、皆様ふるってご参加ください。

物性研究所セミナー

標題：極限セミナー：Rare-earth intermetallic compounds with new transport anomalies

日時：2011年1月31日(月) 午後2時～午後3時30分

場所：物性研究所本館6階 第5セミナー室 (A615)

講師：Professor E. V. Sampathkumaran

所属：Tata Institute of Fundamental Research

要旨：

We have reported a large number of rare-earth (R) intermetallic compounds exhibiting many magnetic and transport anomalies. In my talk, I will demonstrate this by reviewing our recent work on the transport anomalies in the families not paid much attention till recently, R_7Rh_3 and R_5Si_3 .

Particular emphasis will be paid on the magnetoresistance anomalies in Tb_5Si_3 . It is a well-recognized fact that the sign of magnetoresistance (MR) is negative at the field-induced magnetic transitions. In contrast to this traditional belief, in this compound, MR is found to be interestingly positive with a large change in magnitude beyond the critical-field. We invoke the concept of ‘inverse metamagnetism’ (in which magnetic fluctuations are introduced beyond the transition-field) - a concept not so commonly known in metallic magnetism - to explain this. There are observations attributable to an unusual magnetic-phase-coexistence phenomenon, as though the transport is apparently dominated by high-resistive high-field phase.

標題：理論インフォーマルセミナー：Novel magnetization plateaus in frustrated quantum magnets

日時：2011年2月1日(火) 午後4時～午後5時

場所：物性研究所本館6階 第5セミナー室 (A615)

講師：Pinaki Sengupta

所属：シンガポール南洋理工大学

要旨：

Geometrically frustrated spin systems are known to exhibit novel quantum phenomena. One example is the unique non-monotonic field dependence of the magnetization and the associated emergence of magnetization plateaus in a class of frustrated spin compounds commonly known as the Shastry-Sutherland compounds after their underlying magnetic lattice. In this talk, I shall discuss the underlying mechanism for the formation of these plateaus. I shall compare the quantitative predictions from our recently developed unconstrained Chern-Simons theory with experimental observations in $SrCu_2(BO_3)_2$.

Interestingly, our theoretical calculations predict that at the plateaus, the elementary magnetic excitations, triplons, form well-defined stripes. Evidence of such stripes have recently been reported in TmB_4 , another compound belonging to this family.

標題：国際超強磁場科学研究施設セミナー：Study of heavy-fermion systems in pulsed magnetic field

日時：2011年2月15日(火) 午後1時30分～午後3時

場所：国際超強磁場科学研究施設 セミナー室 (C124)

講師：Dr. William KNAFO

所属：トゥルーズ国立強磁場研究所 (フランス)

要旨：

In this talk, I will present recent studies of heavy-fermion systems performed at the LNCMI-Toulouse (France) in pulsed magnetic fields up to 60 T. Heavy fermions are characterized by relatively small energy scales which can be easily tuned by pressure or doping, leading generally to a quantum instability between a paramagnetic and an antiferromagnetic ground states. The application of a magnetic field is an alternative to induce a quantum phase transition on these systems, which are driven in high fields to a polarized paramagnetic state.

An investigation of the magnetic field - temperature phase diagram of CeRh_2Si_2 by resistivity, torque, magnetostriction, and thermal expansion measurements will be presented. CeRh_2Si_2 is an antiferromagnet which becomes superconducting in the neighbourhood of its pressure-induced quantum phase transition to a paramagnetic regime, at around 11 kbar. High fields applied along the easy-axis c permit to tune the system to a polarized paramagnetic regime above 26 T. The magnetic field-temperature phase diagram is found to be composed of (at least) three different antiferromagnetic phases. The magnetic-field and pressure-dependences of the quadratic exponent A of the resistivity indicate a similar enhancement of the effective mass at the pressure- and field-tuned quantum instabilities in CeRh_2Si_2 , which suggests that both kinds of criticality are controlled by common features.

In a second part, I will summarize recent works performed on the “hidden-order” system URu_2Si_2 . High fields applied along the easy-axis c drive the system to a polarized paramagnetic state via a cascade (at very low temperatures) of first-order transitions, at magnetic fields between 35 and 39 T. The magnetoresistance of new high-quality single crystals has been studied for several field-directions, at temperatures between 100 mK and 150 K and in high magnetic fields up to 60 T. Our data confirm the well-established low-temperature magnetic phase diagram of URu_2Si_2 , but also permit to evidence that quantum criticality at the field-induced polarization is initially controlled by the field-induced vanishing of a crossover temperature, which equals approximately 40 K at zero-field. This energy scale might be related to the development of antiferromagnetic correlations, as suggested by the maximum of the susceptibility also observed at around 40-50 K. A comparison of the characteristic energy scales determined by transport and inelastic neutron scattering will be made. Finally, quantum oscillations observed above 30 T in our magnetoresistivity data and their analysis will be presented.

標題：理論系部門博士・修士論文発表会

日時：2011年2月21日(月) 午後2時～午後5時30分

場所：物性研究所本館6階 第5セミナー室 (A615)

要旨：〈プログラム〉

14:00-14:15 河室佑貴 Yuki Kawamuro (上田研究室、修士)

チェッカーボード格子ハバードモデルにおけるフラストレーション効果の数値的研究
Numerical Analysis of Frustration Effects in a Checkerboard Lattice Hubbard Model

14:15-14:30 阿部弘幸 Hiroyuki Abe (加藤研究室、修士)

カイラルp波超伝導体リングにおけるAB効果
Aharonov-Bohm Effect in a Chiral p-wave Superconducting Ring

14:30-14:45 金岩孝一 Kouichi Kanaiwa (杉野研究室、修士)

炭素クラスタにおける電子正孔対分布とその電場依存性：第一原理計算
Electron-hole Distribution in Carbon Clusters and Its Electric Field Dependence - A First-principles Calculation

14:45-15:10 平井宏俊 Hirotoshi Hirai (杉野研究室、博士)

時間依存密度汎関数法を用いた非断熱分子動力学シミュレーション
Non-Adiabatic Molecular Dynamics Simulations using Time-Dependent Density Functional Theory

15:10-15:35 紙屋佳知 Yoshitomo Kamiya (川島研究室、博士)

イジング的対称性破れの付随するフラストレート連続スピン系における相転移と臨界現象
Phase Transitions and Critical Phenomena in Frustrated Continuous Spin Systems with Ising-like Symmetry Breaking

15:35-15:50 休憩

15:50-16:15 江崎健太 Kenta Esaki (甲元研究室、博士)

グラフェンのエッジ状態、エネルギーギャップ、トポロジカル相
Edge States, Energy Gap, and Topological Phases of Graphene

16:15-16:40 桐野俊輔 Shunsuke Kirino (上田研究室、博士)

強相関電子系における非平衡輸送現象の数値的研究
Numerical Studies of Nonequilibrium Transport in Strongly Correlated Electron Systems

16:40-17:05 福屋翔太 Syouta Fukuya (高田研究室、博士)

固有ジョセフソン接合系におけるテラヘルツ波発振の理論
Theory on Terahertz Electromagnetic Wave Emission from Intrinsic Josephson Junctions

17:05-17:30 堀知新 Chishin Hori (高田研究室、博士)

関連のあるヤーン・テラー結合系における超伝導
Superconductivity in Correlated Jahn-Teller Coupled Systems

標題：MDCL Special Seminar : Quantum dynamics of spins on a square lattice

日時：2011年2月21日(月) 午後3時～

場所：物性研究所本館6階 第2セミナー室 (A612)

講師：Professor Niels Bech Christensen

所属：デンマーク工科大学

要旨：

Bulk magnetism in solids is fundamentally quantum mechanical in nature. Yet in many situations, including our everyday encounters with magnetic materials, quantum effects are masked, and it often suffices to think of magnetism in terms of the interaction between classical dipole moments. Whereas this intuition generally holds for ferromagnets, even as the size of the magnetic moment is reduced to that of a single electron spin (the quantum limit), it breaks down spectacularly for antiferromagnets, particularly in low dimensions. Considerable theoretical and experimental progress has been made in understanding quantum effects in one-dimensional quantum antiferromagnets, but a complete experimental description of even simple two-dimensional antiferromagnets is lacking. Here we describe a comprehensive set of neutron scattering measurements on insulating $\text{Cu}(\text{DCOO})_2 \cdot 4\text{D}_2\text{O}$, that reveal a non-spin-wave continuum and strong quantum effects, suggesting entanglement of spins at short distances in the simplest of all two-dimensional quantum antiferromagnets, the square lattice Heisenberg system.

標題：MDCL インフォーマルセミナー：Correlations and Excitations in the $s=1/2$ Quasi-Kagome Antiferromagnet Volborthite

日時：2011年2月22日(火) 午後2時30分～午後3時30分

場所：物性研究所本館6階 第5セミナー室 (A615)

講師：Dr. Goran Nilsson

所属：東京大学 物性研究所

要旨：

Despite recent synthetic efforts, an experimental realization of the $s=1/2$ kagome Heisenberg antiferromagnet remains one of the holy grails of solid state physics. While structurally distorted, volborthite $[\text{Cu}_3\text{V}_2\text{O}_7(\text{OH})_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O}]$ is one of the cleanest known candidate materials, and studies by NMR and μ SR have revealed rich physics, including a crossover into an incommensurate or short range ordered state at $T^*=1$ K [1]. We have probed the instantaneous and dynamical structure factors, $S(\mathbf{Q})$ and $S(\mathbf{Q}, \omega)$, both above and below T^* using polarized and inelastic time of flight neutron scattering on a powder sample. $S(\mathbf{Q})$ shows dominantly nearest neighbor correlations at high temperatures, with a buildup of short range correlations in the positions $\mathbf{Q}_1=0.65(3) \text{ \AA}^{-1}$ and $\mathbf{Q}_2=1.15(5) \text{ \AA}^{-1}$ at $T \sim 5$ K. $S(\mathbf{Q}, \omega)$ reveals a flat band at $\omega \approx 5$ meV, as well as vertical features dispersing from the \mathbf{Q}_1 and \mathbf{Q}_2 positions. Furthermore, the temperature dependence allows us to identify the buildup of intensity in the \mathbf{Q}_1 position as the origin of the feature at T^* . Finally, we employ an empirical spin wave model to demonstrate that the excitations can be generated semi-classically, and that a microscopic understanding of volborthite should be sought away from the pure kagome Heisenberg antiferromagnet.

標題：MDCL Special Seminar：Quantum Magnetism - neutrons in the quasi-particle zoo

日時：2011年2月22日(火) 午後1時30分～

場所：物性研究所本館6階 第5セミナー室 (A615)

講師：Professor Henrik Ronnow

所属：ローザンヌ工科大学

要旨：

The field of quantum magnetism form an arena where theoretical models and experiments on real materials meet to further our understanding of quantum many body physics. I will illustrate the unique role of neutron scattering through results on selected Cu^{2+} based materials serving as physical realizations of fundamental low-dimensional spin 1/2 models. Balancing the borderline between classical antiferromagnetic order and quantum fluctuating ground states, in some ways, theoretical description of fully quantum ground states as found in spin chains and ladders is currently more advanced than for ordered spin clusters, or even the simple 2D square lattice. The antiferromagnetically ordered unfrustrated 2D square lattice host behaviour not explainable by spin-wave theory. This observation from inelastic neutron scattering may provide the 'smoking gun' of so-called resonating valence bonds (RVB) that Anderson and co-workers propose to describe the enigmatic high- T_c cuprate superconductors. Finally I will show how magnetic excitations can now also be investigated with high-resolution Resonant Inelastic X-ray Scattering (RIXS).

標題：反強磁体における電気磁気効果

日時：2011年2月23日(水) 午後4時～午後5時

場所：物性研究所本館6階 第5セミナー室 (A615)

講師：Prof. A. A. Nugroho

所属：Institut Teknologi Bandung

要旨：

The ability to manipulate the electric (magnetic) properties by applying magnetic (electric) field, namely magnetoelectric effect, can be realized due to the magnetoelectric coupling between electrical polarization and magnetization. Magnetoelectric effects have recently attracted much interest since the discovery of multiferroic materials. In multiferroic materials, there is coexistence of at least two order parameters of electrical polarization, magnetization and strain. Following the phenomenological Landau description, I will discuss the magnetoelectric coupling in antiferromagnetic system, namely quadratic and linear coupling for Ga-doped YMnO_3 and MnTiO_3 , respectively. In case of quadratic coupling, the dielectric measurement show anomaly at T_N , whereas in case of linear coupling, there is no anomaly at T_N but a sharp peak in the dielectric constant appears at T_N when a magnetic field is applied. The properties of those couplings in applied magnetic field will be presented.

標題：理論インフォーマルセミナー：バランス制御から集団追跡と逃避：「ゆらぎ」と「遅れ」の織りなす数理と現象

日時：2011年3月1日(火) 午後4時～午後5時

場所：物性研究所本館6階 第5セミナー室 (A615)

講師：大平 徹

所属：ソニーコンピュータサイエンス研究所

要旨：

「ノイズ」や「ゆらぎ」と情報伝達や相互作用の「遅れ」を伴うシステムとその影響は、生体の制御から金融市場まで、幅広く見受けられます。ここではこれらの二つの要素があいまって生み出す様々な現象についての紹介を行うとともに、数理的な側面についても議論します。現象としては姿勢制御や倒立棒制御、符号化システム、衝突歩行流などを紹介します。数理的には「遅れ確率微分方程式」と、対応する「遅れランダムウォーク」についての関係を議論し、また確率共鳴の概念も取り上げます。あわせて最近、「追跡と逃避」と人や動物などの「群れ」の二つの研究の流れを融合する視点で提案をした、集団対集団による「おにごっこ」の数理モデルである「集団追跡と逃避」を紹介し、ここでもゆらぎと遅れの影響を議論します。これらを通じて、「ゆらぎ」と「遅れ」の織りなす多様な側面への関心をいただけるようにと願います。

関連文献

「ノイズと遅れの数理」(大平徹著、共立出版、2006年1月)。

"Group Chase and Escape", A. Kamimura and T. Ohira, *New Journal of Physics*, vol. 12, 053013 (2010).

「時間軸上の非局所性とゆらぎ」大平徹、*日本物理学会誌* vol. 60, 260 (2007/4).

"Stochasticity and Non-locality of Time", T. Ohira, *Physica A*, vol. 379, 483 (2007).

"Resonance with Noise and Delay", T. Ohira and Y. Sato, *Physical Review Letters*, vol. 82, 2811 (1999).

"Delayed Stochastic Systems", T. Ohira and T. Yamane, *Physical Review E*, vol. 61, 1247 (2000).

人事異動

【研究部門等】

○ 平成 23 年 3 月 31 日付け

(辞 職)

氏 名	所 属	職 名	備 考
中 村 典 雄	附属軌道放射物性研究施設	准 教 授	高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設加速器第七研究系教授へ
鈴 木 隆 史	附属物質設計評価施設	助 教 授	兵庫県立大学大学院工学研究科附属ナノ・マクロ構造科学研究センター准教授へ
高 橋 一 志	新物質科学研究部門	助 教 授	神戸大学大学院理学研究科化学専攻無機化学講座准教授へ

○ 平成 23 年 4 月 1 日付け

(採 用)

氏 名	所 属	職 名	備 考
中 村 大 輔	附属国際超強磁場科学研究施設	助 教 授	東京大学大学院総合文化研究科博士課程から
吉 田 靖 雄	ナノスケール物性研究部門	助 教 授	ドイツハンブルク大学応用物理学及び微細構造研究所博士研究員から
多 田 靖 啓	物性理論研究部門	助 教 授	京都大学大学院理学研究科物理学・宇宙物理学専攻博士課程から

(兼 務)

氏 名	所 属	職 名	備 考
家 泰 弘	ナノスケール物性研究部門	教 授	物性研究所長
常 行 真 司	附属物質設計評価施設	教 授	本務：東京大学大学院理学系研究科

(命)

氏 名	所 属	職 名	備 考
常 行 真 司	計算物質科学研究センター	教 授	計算物質科学研究センター長
川 島 直 輝	計算物質科学研究センター	教 授	計算物質科学研究センター副センター長

(所内昇任)

氏 名	所 属	職 名	備 考
鷺 山 玲 子	低温液化室	技術専門職員	技術職員から
福 田 毅 哉	電子計算機室	技術専門職員	技術職員から

(所内異動)

氏名	所属	職名	備考
伊藤 功	先端分光研究部門	技術職員	軌道放射物性研究施設より

(客員：テーマ限定型)

氏名	所属	職名	備考
柄木 良友	新物質科学研究部門	准教授	本務：琉球大学教育学部 委嘱期間：平成23年10月1日～平成24年3月31日
大谷 実	物性理論研究部門	准教授	本務：産業総合研究所ナノシステム研究部門エネルギー材料シミュレーショングループ 委嘱期間：平成23年4月1日～平成23年9月30日
江口 豊明	ナノスケール物性研究部門	准教授	本務：科学技術振興機構ERATO中嶋ナノクラスター集積制御プロジェクト 委嘱期間：平成23年10月1日～平成24年3月31日
奥田 雄一	極限環境物性研究部門	教授	本務：東京工業大学大学院理工学研究科 委嘱期間：平成23年4月1日～平成23年9月30日
有賀 哲也	軌道放射物性研究施設	教授	本務：京都大学大学院理学研究科 委嘱期間：平成23年4月1日～平成23年9月30日
梶原 孝志	中性子科学研究施設	教授	本務：奈良女子大学理学部 委嘱期間：平成23年10月1日～平成24年3月31日

(客員：テーマ提案型)

氏名	所属	職名	備考
吉村 一良	新物質科学研究部門	教授	本務：京都大学大学院理学研究科 委嘱期間：平成23年4月1日～平成23年9月30日
工藤 昭彦	ナノスケール物性研究部門	教授	本務：東京理科大学理学部 委嘱期間：平成23年10月1日～平成24年3月31日
小飼 真人	先端分光研究部門	准教授	本務：(財)高輝度光科学研究センター利用研究促進部門 委嘱期間：平成23年4月1日～平成23年9月30日
塚本 史郎	先端分光研究部門	教授	本務：阿南工業高等専門学校 委嘱期間：平成23年4月1日～平成23年9月30日
江 偉華	国際超強磁場科学研究施設	教授	本務：長岡技術科学大学工学部 委嘱期間：平成23年10月1日～平成24年3月31日
奥田 哲治	国際超強磁場科学研究施設	准教授	本務：鹿児島大学大学院理工学研究科 委嘱期間：平成23年10月1日～平成24年3月31日

○ 平成23年4月18日付け

(辞職)

氏名	所属	職名	備考
中澤 和子	極限環境物性研究部門	技術専門職員	

【事務部】

○ 平成 23 年 4 月 1 日付け

(転出)

氏名	所属	職名	備考
根岸正己	物性研究所	事務長	社会連携担当部長へ
古川稔子	物性研究所共同利用係	専門職員	農学生命科学研究科総務課研究支援チーム係長へ
中川健太郎	物性研究所	総務係主任	国立美術館国立新美術館庶務課係長(庶務担当)へ

(転入)

氏名	所属	職名	備考
小川原茂樹	物性研究所	事務長	地震研究所事務長から
佐藤美香	物性研究所共同利用係	専門職員	柏地区研究センター支援室総務係長
渡辺周吾	物性研究所総務係	係員	新規採用

東京大学物性研究所教員公募について

下記により助教の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

記

1. 研究部門名等および公募人員数
ナノスケール物性研究部門（勝本研究室） 助教1名
2. 研究内容
物性物理学実験一般。量子ドット、超伝導素子、スピントロニクス、光電変換素子などの量子現象の実験。これまでの研究分野は問わない。
3. 応募資格
修士課程修了、またはこれと同等以上の能力を持つ方。
4. 任 期
任期5年、再任可。ただし、1回を限度とする。
5. 公募締切
平成23年7月1日（金）必着
6. 着任時期
決定後なるべく早い時期
7. 提出書類
(イ) 推薦の場合
○推薦書
○履歴書（略歴で可）
○業績リスト（特に重要な論文に○印をつけること）
○主要論文の別刷（3編程度、コピー可）
○研究業績の概要（2000字程度）
○研究計画書（2000字程度）
(ロ) 応募の場合
○履歴書（略歴で可）
○業績リスト（特に重要な論文に○印をつけること）
○主要論文の別刷（3編程度、コピー可）
○所属長・指導教員等による応募者本人についての意見書（作成者から書類提出先へ直送）
○研究業績の概要（2000字程度）
○研究計画書（2000字程度）
8. 書類提出先
〒277-8581 千葉県柏市柏の葉5丁目1番5号 東京大学物性研究所総務係
電話 04-7136-3207 e-mail issp-somu@kj.u-tokyo.ac.jp
9. 本件に関する問い合わせ先
東京大学物性研究所ナノスケール物性研究部門 教授 勝本信吾
電話 04-7136-3305 e-mail kats@issp.u-tokyo.ac.jp
10. 注意事項
「ナノスケール物性研究部門 助教応募書類在中」、または「意見書在中」の旨を朱書きし、郵送の場合は書留とすること。
11. 選考方法
東京大学物性研究所教授会にて審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留いたします。
12. その他
お送りいただいた応募書類等は返却いたしませんので、ご了解の上お申込み下さい。また、履歴書は本応募の用途に限り使用し、個人情報とは正当な理由なく第三者への開示、譲渡及び貸与することは一切ありません。

平成23年2月17日

東京大学物性研究所長
家 泰 弘

東京大学物性研究所教員公募について

下記により助教の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

記

1. 研究部門名等および公募人員数
新物質科学研究部門（森研究室） 助教1名
2. 研究内容
本研究室では、分子の自由度に着目して機能性分子性物質の開発と構造・物性研究を行っている。本公募では、有機物質だけでなく金属錯体も含めた物質合成、および構造・物性測定などを通して、新たな物質科学を開拓し、大学院学生の指導も積極的に行う意欲のある若手研究者を希望する。
3. 応募資格
修士課程修了、またはこれと同等以上の能力を持つ方。
4. 任 期
任期5年、再任可。ただし、1回を限度とする。
5. 公募締切
平成23年7月15日（金）必着
6. 着任時期
決定後なるべく早い時期
7. 提出書類
(イ) 推薦の場合
○推薦書
○履歴書（略歴で可）
○業績リスト（特に重要な論文に○印をつけること）
○主要論文の別刷（3編程度、コピー可）
○研究業績の概要（2000字程度）
○研究計画書（2000字程度）
(ロ) 応募の場合
○履歴書（略歴で可）
○業績リスト（特に重要な論文に○印をつけること）
○主要論文の別刷（3編程度、コピー可）
○所属長・指導教員等による応募者本人についての意見書（作成者から書類提出先へ直送）
○研究業績の概要（2000字程度）
○研究計画書（2000字程度）
8. 書類提出先
〒277-8581 千葉県柏市柏の葉5丁目1番5号
東京大学物性研究所総務係
電話 04-7136-3207 e-mail issp-somu@kj.u-tokyo.ac.jp
9. 本件に関する問い合わせ先
東京大学物性研究所新物質科学研究部門 教授 森初果
電話 04-7136-3444 e-mail hmori@issp.u-tokyo.ac.jp
10. 注意事項
「新物質科学研究部門（森研究室）助教応募書類在中」、または「意見書在中」の旨を朱書し、郵送の場合は書留とすること。
11. 選考方法
東京大学物性研究所教授会にて審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留いたします。
12. その他
お送りいただいた応募書類等は返却いたしませんので、ご了解の上お申込み下さい。また、履歴書は本応募の用途に限り使用し、個人情報とは正当な理由なく第三者への開示、譲渡及び貸与することは一切ありません。

平成23年3月17日

東京大学物性研究所長
家 泰 弘

東京大学物性研究所教員公募について

下記により准教授の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

記

1. 研究部門名等および公募人員数
軌道放射物性研究施設 准教授 1名
2. 研究内容
本学が第3世代放射光施設 SPring-8(兵庫県佐用郡佐用町)に整備したビームライン BL07LSUにて軟X線領域(250eV-2keV)の高輝度放射光を利用して物性研究を精力的に進めると共に、現有スタッフと協力して共同利用実験の支援を行い、新しい研究分野を開拓することに意欲ある若手研究者を希望する。
3. 任期
満56歳に達する年度の初めに任期制に入り、任期は5年とし再任は1回を限度とする。なお、任期制の詳細については下記問い合わせ先までお尋ねください。
4. 公募締切
平成23年7月19日(火)必着
5. 着任時期
決定後なるべく早い時期
6. 提出書類
(イ) 推薦の場合：
○推薦書(健康に関する所見を含む)
○履歴書(略歴で可)
○業績リスト(必ずタイプし、特に重要な論文に○印をつける)
○主要論文の別刷(5編以内、コピー可)
○研究業績の概要(2000字程度)
○研究計画書(2000字程度)
(ロ) 応募の場合
○履歴書(略歴で可)
○業績リスト(必ずタイプし、特に重要な論文に○印をつける)
○主要論文の別刷(5編以内、コピー可)
○研究業績の概要(2000字程度)
○研究計画書(2000字程度)
○所属長・指導教員等による応募者本人に関する意見書(健康に関する所見を含み、作成者から書類提出先へ直送)
7. 書類提出先
〒277-8581 千葉県柏市柏の葉5丁目1番5号
東京大学物性研究所総務係
電話 04-7136-3207 e-mail issp-somu@kj.u-tokyo.ac.jp
8. 本件に関する問い合わせ先
東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設播磨分室 松田 巖
電話 0791(58)0802 内3619 e-mail imatsuda@issp.u-tokyo.ac.jp
9. 注意事項
「軌道放射物性研究施設准教授応募書類在中」、または「意見書在中」の旨を朱書き、郵送の場合は書留とすること。
10. 選考方法
東京大学物性研究所教授会にて審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留いたします。
11. その他
お送りいただいた応募書類等は返却いたしませんので、ご了解の上お申込み下さい。また、履歴書は本応募の用途に限り使用し、個人情報とは正当な理由なく第三者への開示、譲渡及び貸与することは一切ありません。

平成23年4月21日

東京大学物性研究所長
家 泰 弘

平成23年度前期外来研究員一覧

嘱託研究員

氏名	所属	研究題目	関係所員
石橋 高	千葉工業大学惑星探査研究センター 研究員	レーザー加熱ダイヤモンドアンビルにおける高精度な 測温技術の研究	八木
佐野 亜沙美	日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門 研究員	2段式加圧方式による高温高圧中性子回折実験用セル 開発	〃
柄木 良友	琉球大学教育学部 准教授	強相関電子系における量子臨界現象および、幾何学的 フラストレーションにとまう新しい量子磁性	中辻
林 正彦	秋田大学教育文化学部 准教授	メゾスコピック超伝導体の巨大渦糸の理論研究	加藤
成島 哲也	自然科学研究機構分子科学研究所 助教	超高真空透過赤外吸収分光による機械的応力によるシリ コン表面化学の研究	吉信
江口 豊明	科学技術振興機構 グループリーダー	放射光励起走査プローブ顕微鏡によるナノ元素分析	長谷川
大西 剛	物質・材料研究機構国際ナノアーキテクトニクス研究拠点 主任研究員	極性結晶のイオン散乱分光	リップマー
片野 進	埼玉大学大学院理工学研究科 教授	中性子回折に用いる圧力装置の開発	上床
梅原 出	横浜国立大学大学院工学研究院 教授	高圧下の比熱測定装置の開発	〃
中島 美帆	信州大学理学部 准教授	圧力誘起超伝導体の探索	〃
藤原 直樹	京都大学大学院人間環境学研究所 准教授	圧力下 NMR 測定法に関する開発	〃
藤原 哲也	山口大学大学院理工学研究科 助教	Ce ₂ Pd ₃ Si ₅ の単結晶試料評価とその圧力効果	〃
磯田 誠	香川大学教育学部 教授	重い電子系物質における圧力下電気抵抗測定	〃
巨海 玄道	久留米工業大学 教授	磁性体の圧力効果	〃
辺土 正人	琉球大学理学部 准教授	低温マルチアンビル装置の開発	〃
村田 恵三	大阪市立大学大学院理学研究科 教授	有機伝導体の圧力効果	〃
高橋 博樹	日本大学文理学部 教授	多重極限関連装置の調整	〃
糸井 充穂	日本大学医学部 助教	擬一次元有機物質の圧力下物性研究	〃
松本 武彦	物質・材料研究機構 技術参事	NiCrAl を用いた圧力装置の開発	〃
名嘉 節	物質・材料研究機構 主席研究員	磁化測定装置の開発	〃
池田 伸一	産業技術総合研究所 主任研究員	新しい 122 化合物の単結晶成長の試みと圧力効果	〃
妹尾 仁嗣	理化学研究所 専任研究員	有機化合物の圧力効果	〃
藤森 淳	東京大学大学院理学系研究科 教授	高温超伝導体の高分解能光電子分光	辛
石坂 香子	東京大学大学院工学系研究科 准教授	60-eV レーザーを用いた時間分解光電子分光の開発	〃

小野瀬 佳 文	東京大学大学院工学系研究科 講 師	新規開発強相関物質の高分解能光電子分光	辛
下志万 貴 博	東京大学大学院工学系研究科 助 教	鉄系超伝導体のレーザー光電子分光	〃
吉 田 鉄 平	東京大学大学院理学系研究科 助 教	鉄ニクタイトの高分解能光電子分光	〃
竹 内 恒 博	名古屋大学エコトピア科学研究所 准教授	Bi 系超伝導体の角度分解光電子分光	〃
木 須 孝 幸	大阪大学大学院基礎工学研究科 准教授	光電子分光法を用いた各種分子性結晶の電子状態の研究 及び装置の低温化	〃
横 谷 尚 睦	岡山大学大学院自然科学研究科 教 授	高分解能光電子分光による強相関物質の研究	〃
江 口 律 子	岡山大学大学院自然科学研究科 助 教	酸化バナジウムの高分解能光電子分光	〃
金 井 要	東京理科大学理工学部 准教授	有機化合物の光電子分光	〃
田 村 隆 治	東京理科大学基礎工学部 講 師	準結晶の高分解能光電子分光	〃
樋 口 透	東京理科大学理学部 助 教	共鳴逆光電子分光装置の開発	〃
藤 森 伸 一	日本原子力研究開発機構 研究副主幹	重い電子系ウラン化合物の高分解能光電子分光	〃
小 野 寛 太	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 准教授	レーザーPEEM による磁性体の研究	〃
津 田 俊 輔	物質・材料研究機構若手国際研究拠点 研究員	レーザー光電子分光による酸化物薄膜の研究	〃
松 波 雅 治	自然科学研究機構分子科学研究所 助 教	4f 電子系物質の高分解能光電子分光	〃
手 塚 泰 久	弘前大学理工学部 准教授	希土類金属化合物の非占有電子状態解析	柿 崎
坂 本 一 之	千葉大学大学院融合科学研究科 准教授	高輝度軟 X 線を利用する光電子顕微鏡装置の設計・開 発	〃
大 門 寛	奈良先端科学技術大学院大学 教 授	二次元表示型スピン分解光電子エネルギー分析器の開 発	〃
松 井 文 彦	奈良先端科学技術大学院大学 助 教	〃	〃
島 田 賢 也	広島大学放射光科学研究センター 教 授	軟 X 線時間分解分光実験による磁性研究	〃
木 村 昭 夫	広島大学大学院理学研究科 准教授	〃	〃
奥 田 太 一	広島大学放射光科学研究センター 准教授	光電子スピン検出器の開発・研究	〃
伊 藤 健 二	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 教 授	高輝度光源計画における直入射ビームラインおよびそ の利用計画の検討	〃
雨 宮 健 太	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 准教授	軟 X 線アンジュレータビームラインの分光光学系の開 発研究	〃
小 野 寛 太	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 准教授	高輝度極紫外ビームラインの設計・評価	〃
木 村 真 一	自然科学研究機構分子科学研究所 准教授	〃	〃
間 瀬 一 彦	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 准教授	高輝度放射光における表面化学研究用コンシデンス分 光ビームラインの設計	〃
後 藤 俊 治	高輝度光科学研究センター 部門長	高輝度光源ビームラインにおける分光光学系の設計・ 開発	〃
大 橋 治 彦	高輝度光科学研究センター 副主席研究員	〃	〃
木 下 豊 彦	高輝度光科学研究センター 主席研究員	光電子顕微鏡による磁性ナノ構造物質の磁化過程	〃
栗 木 雅 夫	広島大学大学院先端物質科学研究科 教 授	高輝度電子銃の研究	〃

沢村 勝	日本原子力研究開発機構 副主任研究員	ERL 超伝導加速空洞の高次モード減衰機構の研究開発	柿崎
伊澤 正陽	高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設 教授	高周波加速空洞の開発研究	〃
小関 忠	高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設 教授	電磁石及び高周波加速システムの開発研究	〃
小林 幸則	高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設 教授	パルス多重極電磁石を用いた新しい入射方式の研究	〃
山本 樹	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 教授	挿入光源の研究	〃
帯名 崇	高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設 准教授	放射光源の制御及びモニタシステムの開発研究	〃
本田 融	高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設 准教授	超高真空システムの開発研究	〃
梅森 健成	高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設 助教	超伝導加速空洞の開発研究	〃
阪井 寛志	高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設 助教	連続波型超伝導加速空洞用入力カブラーの研究	〃
佐藤 政則	高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設 助教	線型加速器のビーム制御に関する研究	〃
原田 健太郎	高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設 助教	挿入光源磁場のビームへの影響に関する研究	〃
北村 英男	理化学研究所 グループディレクター	偏光制御軟 X 線アンジュレータの研究開発	〃
田中 隆次	理化学研究所 専任研究員	垂直 8 の字アンジュレータと移相器の研究開発	〃
大熊 春夫	高輝度光科学研究センター 部門長	高輝度光源ビームラインの高度化	〃
近藤 寛	慶應義塾大学工学部 教授	高輝度放射光軟 X 線を用いた時間分解光電子分光による表面ダイナミクス研究	松田 (巖)
木村 洋昭	高輝度光科学研究センター 主幹研究員	軟 X 線偏光解析装置の開発	〃
古坂 道弘	北海道大学大学院工学研究科 教授	小型集束型小角散乱装置の高性能化及びそれによる応用研究	柴山
金子 純一	北海道大学大学院工学研究科 准教授	中性子極小角散乱実験装置のアップグレード	〃
野田 幸男	東北大学多元物質科学研究所 教授	中性子散乱装置 FONDER のアップグレード後の研究計画の実施と共同利用の推進	〃
岩佐 和晃	東北大学大学院理学研究科 准教授	中性子散乱装置の共同利用・開発による強相関電子系物質の構造物性の研究	〃
大山 研司	東北大学金属材料研究所 准教授	中性子散乱装置のアップグレード後の研究計画の実施と共同利用の推進	〃
藤田 全基	東北大学金属材料研究所 准教授	〃	〃
平賀 晴弘	東北大学金属材料研究所 助教	〃	〃
田畑 吉計	京都大学大学院工学研究科 准教授	〃	〃
松村 武	広島大学大学院先端物質科学研究科 准教授	〃	〃
木村 宏之	東北大学多元物質科学研究所 准教授	中性子 4 軸回折計 FONDER の制御プログラムの改良	〃
松浦 直人	東北大学金属材料研究所 助教	J-PARC/MLF と JRR-3 共存時代に向けた 3 軸型中性子散乱装置の高度化	〃
桑原 慶太郎	茨城大学大学院工学研究科 准教授	中性子分光器を用いた強相関電子系物質の微視的研究	〃
横山 淳	茨城大学理学部 准教授	高度化した 3 軸分光器を用いた共同利用の推進と物質科学研究の実施	〃
田崎 誠司	京都大学大学院工学研究科 准教授	冷中性子スピン干渉計の応用と MINE ビームラインの整備	〃

中野 実	京都大学大学院薬学研究科 准教授	ナノディスクの微細構造と構造揺らぎの評価	柴山
杉山 正明	京都大学原子炉実験所 准教授	C1-3 ULS 極小角散乱装置 IRT	〃
日野 正裕	京都大学原子炉実験所 准教授	MIEZE 型スピネコー装置及び冷中性子反射率計・干渉計のアップグレード	〃
北口 雅暁	京都大学原子炉実験所 助教	〃	〃
藤原 哲也	山口大学大学院理工学研究科 助教	中性子散乱用高圧セルの開発および高圧下における中性子散乱実験	〃
高橋 良彰	九州大学先端物質化学研究所 准教授	流動場でのソフトマターの構造変化に関する研究	〃
阿曾 尚文	琉球大学理学部 准教授	高度化した3軸分光器を用いた物質科学研究の実施と共同利用の推進	〃
川端 庸平	首都大学東京大学院理工学研究科 助教	陽イオン性界面活性剤水溶液のゲル構造におけるラメラドメイン構造	〃
伊藤 晋一	高エネルギー加速器研究機構 准教授	中性子散乱研究計画の実施と共同利用の推進	〃
大竹 淑恵	理化学研究所仁科加速器センター 先任研究員	冷中性子干渉コントラストイメージングならびに超精密光学実験の開発研究	〃
鳴海 康雄	東北大学金属材料研究所 准教授	強磁場量子ビーム科学のためのパルスマグネットの開発	金道

一 般

氏名	所属	研究題目	関係所員
関根 ちひろ	室蘭工業大学 准教授	アルカリ土類金属を含む充填スクッテルダイト化合物の新物質探索	八木
田鎖 学	室蘭工業大学 修士課程	〃	〃
山口 周	東京大学大学院工学系研究科 教授	超高圧プレスを用いた新規プロトニクス酸化物のソフト化学的合成法の検討	〃
三好 正悟	東京大学大学院工学系研究科 助教	〃	〃
田中和彦	東京大学大学院工学系研究科 技術専門職員	〃	〃
山口 周	東京大学大学院工学系研究科 教授	溶融亜鉛メッキ合金相の応力誘起変態	〃
三好 正悟	東京大学大学院工学系研究科 助教	〃	〃
田中和彦	東京大学大学院工学系研究科 技術専門職員	〃	〃
長谷川 正	名古屋大学大学院工学研究科 教授	超高圧下での高分子前駆体反応による新物質の創製	〃
平野 力	名古屋大学大学院工学研究科 修士課程	〃	〃
草場 啓治	名古屋大学大学院工学研究科 准教授	超高圧下での B-N-O 系新超硬物質の合成	〃
中沢 成輝	名古屋大学大学院工学研究科 修士課程	〃	〃
丹羽 健	名古屋大学大学院工学研究科 助教	超高圧高温有機無機変換による新規 C-N 系化合物の創製	〃
神 有輝	名古屋大学大学院工学研究科 修士課程	〃	〃
陰山 洋	京都大学大学院工学研究科 教授	スピン梯子鉄酸化物の高圧 X 線回折	〃
セドリック タッセル	京都大学大学院工学研究科 博士課程	〃	〃

山本 隆文	京都大学大学院工学研究科 博士課程	スピン梯子鉄酸化物の高圧 X 線回折	八木
大倉 仁寿	京都大学大学院工学研究科 ※学部 4 年	”	”
平井 寿子	愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター 教授	filled ice 構造水素ハイドレートにおける水素原子のホ ストーゲスト間交換反応	”
篠崎 彩子	愛媛大学大学院理工学研究科 博士課程	”	”
田中 岳彦	愛媛大学大学院理工学研究科 博士課程	”	”
藤井 卓	愛媛大学理学部 ※学部 4 年	”	”
福永 正則	東京理科大学理学部第一部 助教	高温高圧合成法による 2 次元性強誘電体 Bi 層状ペロブス カイトの合成	”
横山 淳	茨城大学理学部 准教授	強相関電子系化合物の秩序相に対する結晶対称性およ び軌道縮退の効果	榊原
中田 崇寛	茨城大学大学院理工学研究科 修士課程	”	”
佐藤 憲昭	名古屋大学大学院理学研究科 教授	ウラン化合物 $UCoGe$ の超伝導状態における強磁性の 観測	”
出口 和彦	名古屋大学大学院理学研究科 助教	”	”
町田 一成	岡山大学大学院自然科学研究科 教授	重い電子系超伝導体の対関数対称性の決定	”
鬼丸 孝博	広島大学大学院先端物質科学研究科 助教	カゴ状化合物 $PrRh_2Zn_{20}$ の非磁性二重項基底状態	”
光田 暁弘	九州大学大学院理学研究院 准教授	価数揺動 Yb 化合物の極低温における磁気異方性の研究	”
杉島 正樹	九州大学大学院理学府 博士課程	”	”
東中 隆二	首都大学東京大学院理工学研究科 助教	カゴ状物質 PrT_2Al_{20} における新奇非磁性基底状態の探 索	”
中間 章浩	首都大学東京大学院理工学研究科 修士課程	”	”
細越 裕子	大阪府立大学大学院理学系研究科 教授	フラストレート有機磁性体の磁化測定	”
山口 博則	大阪府立大学大学院理学系研究科 助教	”	”
東口 文香	大阪府立大学大学院理学系研究科 ※学部 4 年	”	”
三浦 康弘	桐蔭横浜大学大学院工学研究科 准教授	長鎖アルキル基を含む電荷移動塩の結晶育成	森
花咲 徳亮	岡山大学大学院自然科学研究科 准教授	希土類金属間化合物の逐次相転移下における磁気トル ク測定	田島
三上 和幸	岡山大学大学院自然科学研究科 修士課程	”	”
松田 真生	熊本大学大学院自然科学研究科 准教授	分子性導電体の磁気・光物性研究	”
大石 寛子	熊本大学大学院自然科学研究科 修士課程	”	”
松田 真生	熊本大学大学院自然科学研究科 准教授	有機薄膜素子の物性研究	”
木下 頌章	熊本大学大学院自然科学研究科 修士課程	”	”
鳥塚 潔	法政大学理工学部 非常勤講師	磁気トルク測定による有機導体の研究	”
長谷川 靖洋	埼玉大学工学部 准教授	極低温・強磁場中でのピスマスナノワイヤーの熱電効 果	家
村田 正行	埼玉大学大学院理工学研究科 ※修士課程	”	”

山本浩也	埼玉大学大学院理工学研究科 修士課程	極低温・強磁場中でのビスマスナノワイヤーの熱電効果	家
長谷川靖洋	埼玉大学工学部 准教授	ビスマスナノワイヤーのフェルミ準位直径依存性測定	〃
常見文昭	埼玉大学大学院理工学研究科 ※学部4年	〃	〃
金沢育三	東京学芸大学 教授	AI系準結晶及び近似結晶中の構造欠陥の陽電子ビーム法による分析	小森
齋藤誠	東京学芸大学 ※学部4年	〃	〃
金沢育三	東京学芸大学自然科学系 教授	キャリアドーピングボロンクラスター物質の作製と陽電子ビーム法による分析	〃
山田浩平	東京学芸大学 ※学部4年	〃	〃
大野真也	横浜国立大学大学院工学研究院 特別研究教員	表面ナノパターンによる非線形光学効果	〃
河村紀一	日本放送協会放送技術研究所 主任研究員	ナノ磁性体の応用研究	〃
大野真也	横浜国立大学大学院工学研究院 特別研究教員	シリコン表面上の有機薄膜成長過程の光電子分光	吉信
高村由起子	北陸先端科学技術大学院大学マテリアルサイエンス研究科 講師	エピタキシャル二ホウ化物薄膜表面の低温走査トンネル顕微鏡観察	長谷川
ライター フリードライン	北陸先端科学技術大学院大学マテリアルサイエンス研究科 講師	〃	〃
アントワヌ フロランス	北陸先端科学技術大学院大学マテリアルサイエンス研究科 博士研究員	〃	〃
伊高健治	弘前大学北日本新エネルギー研究所 准教授	太陽電池応用を目指したエネルギー材料の研究	リップマー
大久保勇男	東京大学大学院工学系研究科 助教	低電圧駆動抵抗スイッチング素子を目指した金属-酸化物界面制御	〃
桜井康成	東京大学大学院工学系研究科 修士課程	〃	〃
大久保勇男	東京大学大学院工学系研究科 助教	強磁性絶縁体を障壁層に用いた新しいトンネル接合素子の作製	〃
森本祐加	神戸大学工学部 ※学部4年	〃	〃
青木悠樹	東京工業大学大学院総合理工学研究科 助教	ずれ振動に対する固体ヘリウム4の応答	久保田
原田修治	新潟大学工学部 教授	低温下における固体中の軽粒子系の量子効果	〃
荒木秀明	長岡工業高等専門学校 准教授	〃	〃
佐々木豊	京都大学低温物質科学研究センター 准教授	回転超流動ヘリウム3のテクスチャーダイナミクスの研究	〃
石川修六	大阪市立大学大学院理学研究科 教授	超流動ヘリウム3-A相での半整数量子渦とエッジ流の検出	〃
山口明	兵庫県立大学大学院物質理学研究科 准教授	超流動ヘリウム3高偏極状態の実現に向けたスピン流制御の研究	〃
和田雅人	兵庫県立大学大学院物質理学研究科 修士課程	〃	〃
村山茂幸	室蘭工業大学 教授	強相関型セリウム化合物および合金の量子相転移と磁性	上床
雨海有佑	室蘭工業大学 助教	〃	〃
関口徹	室蘭工業大学 修士課程	〃	〃
片野進	埼玉大学大学院理工学研究科 教授	空間反転対称性を欠いた系、CeNiC ₂ の磁気秩序と超伝導：圧力効果	〃
中野智仁	新潟大学工学部 助教	新奇カゴ状化合物の圧力下輸送特性	〃

時 吉 信太郎	新潟大学大学院自然科学研究科 修士課程	新奇カゴ状化合物の圧力下輸送特性	上 床
中 野 智 仁	新潟大学工学部 助 教	強相関希土類化合物の圧力下輸送特性	”
佐 藤 亮 平	新潟大学工学部 ※学部4年	”	”
佐 藤 憲 昭	名古屋大学大学院理学研究科 教 授	希土類トリテルライド $R\text{Te}_3$ ($R = \text{Ce, Tb}$) と SmS の高 圧下物性実験	”
井 村 敬一郎	名古屋大学大学院理学研究科 助 教	”	”
出 口 和 彦	名古屋大学大学院理学研究科 助 教	”	”
兼 松 慎 吉	名古屋大学大学院理学研究科 修士課程	”	”
大 原 繁 男	名古屋工業大学大学院工学研究科 教 授	$\text{Ce}_2\text{MGa}_{12}$ ($M=\text{Ni, Pd, Pt}$) 金属間化合物における圧力誘 起超伝導	”
山 下 哲 朗	名古屋工業大学大学院工学研究科 博士課程	”	”
繁 岡 透	山口大学大学院理工学研究科 教 授	PrRh_2Ge_2 の磁気転移	”
張 雅 恒	山口大学大学院理工学研究科 博士課程	”	”
大河原 遊	山口大学理学部 ※学部4年	”	”
藤 原 哲 也	山口大学大学院理工学研究科 助 教	ThCr_2Si_2 型フォスファイド EuRu_2P_2 の超高压力下の 電気抵抗測定 (2)	”
佐 川 治 信	山口大学大学院理工学研究科 修士課程	”	”
藤 原 哲 也	山口大学大学院理工学研究科 助 教	重い電子系新物質 $\text{Ce}_2\text{Pt}_3\text{Ge}_5$ の磁化測定	”
佐 川 治 信	山口大学大学院理工学研究科 修士課程	”	”
飯久保 智	九州工業大学大学院生命体工学研究科 助 教	逐次転移を示す Mn_3ZnN の圧力効果	”
松 田 真 生	熊本大学大学院自然科学研究科 准教授	金属フタロシアニン分子性導電体の超高压下における 電気、および、磁気特性	”
木 下 頌 章	熊本大学大学院自然科学研究科 修士課程	”	”
小 山 佳 一	鹿児島大学大学院理工学研究科 教 授	Mn_2Sb 系メタ磁性体の高圧下に置ける磁気準安定状態	”
折 橋 広 樹	鹿児島大学理学部 ※学部4年	”	”
廣 井 政 彦	鹿児島大学大学院理工学研究科 教 授	ホイスラー化合物 $\text{Ru}_{2-x}\text{Fe}_x\text{CrSi}$ の圧力効果	”
古 田 達 哉	鹿児島大学理学部 ※学部4年	”	”
仲 間 隆 男	琉球大学理学部 教 授	希土類遷移金属間化合物の高圧下における磁性と輸送 特性	”
内 間 清 晴	沖縄キリスト教短期大学総合教育系 教 授	”	”
竹 田 政 貴	琉球大学大学院理工学研究科 ※研究生	”	”
新 垣 望	琉球大学大学院理工学研究科 修士課程	”	”
仲 間 隆 男	琉球大学理学部 教 授	価数揺動物質の高圧力中輸送特性の研究	”
ハインツ-ゲオルグ フ レ ッ シ ュ	琉球大学理学部 博士研究員	”	”
仲 村 愛	琉球大学大学院理工学研究科 修士課程	”	”

阿 曾 尚 文	琉球大学理学部 准教授	磁性超伝導体 CeTIn_5 (T=Co,Rh,Ir) の高圧下磁化測定	上 床
高江洲 義 尚	琉球大学理学部 科研費研究員	"	"
玉 置 優 樹	琉球大学大学院理工学研究科 修士課程	磁性超伝導体 CeTIn_5 (T=Co,Rh,Ir) の高圧下磁化測定	"
阿 曾 尚 文	琉球大学理学部 准教授	空間反転対称性のない磁性超伝導体 CeTSi_3 (T=Rh,Ir) の高圧下輸送特性	"
高江洲 義 尚	琉球大学理学部 科研費研究員	"	"
比 嘉 裕 太	琉球大学理学部 ※学部4年	"	"
辺 土 正 人	琉球大学理学部 准教授	鉄ヒ素系圧力誘起超伝導体 $\text{Eu}_{0.5}\text{Ca}_{0.5}\text{Fe}_2\text{As}_2$ の高圧下輸送特性	"
米 須 将 太	琉球大学大学院理工学研究科 修士課程	"	"
辺 土 正 人	琉球大学理学部 准教授	立方晶ラーベス相化合物 $\text{Ho}(\text{Co}_{1-x}\text{Al}_x)_2$ の高圧下輸送特性	"
瑞慶覧 長 潤	琉球大学大学院理工学研究科 修士課程	"	"
村 田 恵 三	大阪市立大学大学院理学研究科 教 授	3 GPa 以上、2 K 以下の有機伝導体の物性	"
増 田 耕 育	大阪市立大学大学院理学研究科 修士課程	"	"
三 浦 康 弘	桐蔭横浜大学大学院工学研究科 准教授	導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電気的性質	"
山 本 稔	徳島大学先端技術科学教育部 博士課程	軟X線レーザー干渉計における分解能向上のための要素技術の開発	末 元
竹 内 恒 博	名古屋大学エコトピア科学研究所 准教授	レーザー励起角度分解光電子分光を用いた不足ドーブ領域酸化物高温超伝導体の超伝導ギャップの測定	辛
齋 藤 智 彦	東京理科大学理学部第一部 准教授	高分解能角度分解光電子分光による層状 Co 酸化物の電子構造研究	"
齋 藤 智 彦	東京理科大学理学部第一部 准教授	軟X線レーザー時間分解光電子分光による CDW 物質 1T-TaS_2 の研究	"
山 本 貴 士	東京理科大学大学院理学研究科 修士課程	"	"
小 柴 俊	香川大学工学部 教 授	窒素変調ビームエピタキシー法により作製した窒化物半導体超格子構造の高分解能 X 線回折測定	高 橋
戎 麻 里	香川大学大学院工学研究科 修士課程	"	"
矢 口 裕 之	埼玉大学大学院理工学研究科 教 授	様々な面方位基板に作製した窒素原子層ドーブ GaAs における等電子トラップ発光に関する研究	秋 山
高 宮 健 吾	埼玉大学大学院理工学研究科 博士課程	"	"
星 野 真 也	埼玉大学大学院理工学研究科 修士課程	"	"
小 柴 俊	香川大学工学部 教 授	RF-MBE 法を用いて作製した窒化物半導体超格子構造の光学特性の評価	"
白 神 昌 明	香川大学大学院工学研究科 修士課程	"	"
宮 川 勇 人	香川大学工学部 准教授	希薄磁性半導体 GaGdAs の光学特性と光スピンドイナミクス	"
宇 田 雄 気	香川大学工学部 ※学部4年	"	"
木 村 薫	東京大学大学院新領域創成科学研究科 教 授	III 族クラスター固体の電子物性に関する研究	廣 井
高 際 良 樹	東京大学大学院新領域創成科学研究科 助 教	"	"
住 吉 篤 郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程	"	"

北原 功一	東京大学大学院新領域創成科学研究科 修士課程	III 族クラスター固体の電子物性に関する研究	廣井
原田 健自	京都大学大学院情報学研究科 助教	テンソルネットワーク変分法を用いたフラストレーションのある量子スピン系の基底状態計算	川島
川崎 猛史	京都大学大学院理学研究科 JSPS 特別研究員	大規模計算機を利用した、分子動力学法による濡れ動力学に関する研究	野口
勅使河原 良平	京都大学大学院理学研究科 博士課程	”	”
繁岡 透	山口大学大学院理工学研究科 教授	HoRh ₂ Si ₂ 単結晶の磁場中比熱	吉澤
大河原 遊	山口大学理学部 ※学部4年	”	”
藤原 哲也	山口大学大学院理工学研究科 助教	ThCr ₂ Si ₂ 型ランタノイド・フッソファイド超伝導体 LaRu ₂ P ₂ の磁場中比熱 (3)	”
佐川 治信	山口大学大学院理工学研究科 修士課程	”	”
牧野 哲征	東北大学原子分子材料科学高等研究機構 講師	ZnO 系単一ヘテロ構造における磁気反射特性の評価	嶽山
瀬川 勇三郎	理化学研究所交差相関物性科学研究グループ 客員主管研究員	”	”
小野 俊雄	東京工業大学大学院理工学研究科 助教	S=1/2 籠目格子反強磁性体 A ₂ Cu ₃ SnF ₁₂ (A=Cs, Rb) の 一巻きコイル法による超強磁場磁化測定と磁気異方性	”
佐々木 実	山形大学理学部 教授	60T 級パルスマグネットを用いた磁性トポロジカル絶 縁体単結晶の磁気抵抗結果とホール効果測定	金道
安 輔顯	山形大学理学部 修士課程	”	”
海老原 孝雄	静岡大学理学部 准教授	希土類金属間化合物の強磁場物性研究	”
植田 浩明	京都大学大学院理学研究科 准教授	パイロクロア弗化物の磁性	”
天野 晶文	京都大学大学院理学研究科 修士課程	”	”
道岡 千城	京都大学大学院理学研究科 助教	Ca ₃ Ir ₄ Sn ₁₃ およびその周辺物質の単結晶を用いた強磁 場磁化測定	”
太田 寛人	京都大学大学院理学研究科 教務補佐員	”	”
谷澤 篤志	京都大学大学院理学研究科 博士課程	”	”
小林 慎太郎	京都大学大学院理学研究科 修士課程	”	”
陰山 洋	京都大学大学院工学研究科 教授	立方晶(Ba, Sr, Ca)FeO ₃ の強磁場磁化測定	”
北田 敦	京都大学大学院工学研究科 博士課程	”	”
坂口 辰徳	京都大学大学院工学研究科 博士課程	”	”
光岡 新悟	京都大学大学院工学研究科 ※学部4年	”	”
和氣 剛	京都大学大学院工学研究科 助教	η-カーバイド型化合物の強磁場磁化測定	”
古澤 大介	京都大学工学部 ※学部4年	”	”
園田 早紀	京都工芸繊維大学電子システム工学部門 准教授	遷移金属添加窒化物半導体の電気伝導特性研究	”
菊池 彦光	福井大学大学院工学研究科 教授	フラストレート磁性体の強磁場磁化過程	”
藤澤 真士	福井大学重点研究高度化推進本部 特命助教	”	”
中田 隼人	福井大学大学院工学研究科 ※学部4年	”	”

伊賀文俊	広島大学大学院先端物質科学研究科 准教授	高圧合成で作製した新規カゴ状物質 SmB ₁₂ と SmB ₂₅ の 強磁場磁性	金道
伊賀文俊	広島大学大学院先端物質科学研究科 准教授	近藤半導体 YbB ₁₂ の 100T パルス磁場下での強磁場磁 化過程及び磁気抵抗	〃
野口智明	広島大学大学院先端物質科学研究科 修士課程	〃	〃
繁岡透	山口大学大学院理工学研究科 教授	RPd ₂ Si ₂ 化合物単結晶の強磁場磁化 III	〃
長谷川貴大	山口大学理学部 ※学部4年	〃	〃
浅野貴行	九州大学大学院理学研究院 助教	磁気双安定を有する量子スピン鎖の強磁場物性	〃
眞鍋栄樹	九州大学大学院理学院 修士課程	〃	〃
浅野貴行	九州大学大学院理学研究院 助教	正三角ニッケル反強磁性クラスターの強磁場磁化過程	〃
高田えみか	九州大学大学院理学院 修士課程	〃	〃
光田暁弘	九州大学大学院理学研究院 准教授	価数転移と価数秩序を示す Eu 化合物の磁気抵抗効果	〃
杉島正樹	九州大学大学院理学院 博士課程	〃	〃
浜野卓	九州大学理学部 ※学部4年	〃	〃
細越裕子	大阪府立大学大学院理学系研究科 教授	有機スピンラダーの強磁場磁化測定	〃
長谷川直哉	大阪府立大学大学院理学系研究科 修士課程	〃	〃
長谷正司	物質・材料研究機構量子ビームセンター 主席研究員	スピン 3/2 反強磁性ダイマー物質 CrVMoO ₇ の超強磁 場磁化測定	〃
北澤英明	物質・材料研究機構量子ビームセンター グループリーダー	希土類カゴ状化合物 Ce ₃ Pd ₂₀ (Si _{1-x} Ge _x) ₆ の近藤状態に関 する研究	〃
伊東航	東北大学大学院工学研究科 JSPS 特別研究員	超強磁場を利用した NiMn 基および FeMn 基合金の低 温異常現象の観察および起源解明	徳永
キョ キョウ	東北大学大学院工学研究科 博士課程	〃	〃
有馬孝尚	東北大学多元物質科学研究所 教授	カルコパイライトにおける強磁場下のスピントロップ と電気磁気結合	〃
矢口宏	東京理科大学理工学部 准教授	非破壊パルス強磁場を用いたグラファイトの磁場誘起 秩序相の研究	〃

物質合成・評価設備 P クラス

氏名	所属	研究題目	関係所員
小林洋治	京都大学大学院工学研究科 助教	低温酸化法による酸化物への酸素イオン・フッ素イオン 挿入	上田(寛)
矢島健	京都大学大学院工学研究科 博士研究員	〃	〃
リースゼインベルク	京都大学大学院工学研究科 博士課程	〃	〃
竹入史隆	京都大学工学部 ※学部4年	〃	〃
中山則昭	山口大学大学院理工学研究科 教授	強相関係遷移金属酸化物の透過電子顕微鏡法による研 究	〃
松平和之	九州工業大学大学院工学研究院 助教	パイロクロア型希土類酸化物の単結晶育成と磁気フラ ストレーションの研究	廣井

物質合成・評価設備 G クラス

氏名	所属	研究題目	関係所員
木村 薫	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授	III 族クラスター固体の電子物性に関する研究	物質合成室 化学分析室 電磁気測定室
高際 良樹	東京大学大学院新領域創成科学研究科助教	〃	〃
住吉 篤郎	東京大学 大学院新領域創成科学研究科博士課程	〃	〃
北原 功一	東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程	〃	〃
竹田 真帆人	横浜国立大学大学院工学研究院准教授	Cu-Ni-Co 系合金中の Co 微粒子析出過程と磁気特性の関係	物質合成室 電子顕微鏡室 電磁気測定室
李 東海	横浜国立大学大学院工学府博士課程	〃	電子顕微鏡室 電磁気測定室
竹田 真帆人	横浜国立大学大学院工学研究院准教授	Cu-Ni-Fe 系合金中における析出ナノ粒子と磁気特性の関係	物質合成室 電子顕微鏡室 電磁気測定室
高野 充輝	横浜国立大学大学院工学府修士課程	〃	電磁気測定室
植田 浩明	京都大学大学院理学研究科准教授	パイロクロア弗化物の磁性	化学分析室
東中 隆二	首都大学東京大学院理工学研究科助教	充填スクッテルダイト (Sm _x La _{1-x})Os ₄ Sb ₁₂ における新奇な重い電子状態発現機構の探索	〃
大友 順一郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授	超臨界水の溶解特性を利用した新規分離回収手法の開発	化学分析室 X線測定室
松本 祐太	東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程	〃	〃
大友 順一郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授	酸化物イオン伝導体を触媒担体に用いたケミカルループ法による水素生成	〃
瀧本 勲	東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程	〃	〃
大友 順一郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授	中温作動直接アルコール型燃料電池の燃料多様化と非白金系触媒の検討	〃
石山 啓介	東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程	〃	〃
大友 順一郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授	有機/無機ハイブリッド型太陽電池の高効率化	〃
羽野 修平	東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程	〃	〃
大友 順一郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授	プロトン伝導性固体電解質形燃料電池空気極における反応機構の解明	〃
川村 亮人	東京大学工学部 ※学部4年	〃	〃
大友 順一郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授	高温高圧水を用いた有機・無機ハイブリッドナノ銅粒子の合成と反応制御	〃
佐野 恵二	東京大学工学部 ※学部4年	〃	〃
東中 隆二	首都大学東京大学院理工学研究科助教	カゴ状物質 PrT ₂ Al ₂₀ における新奇非磁性基底状態の探索	〃
中間 章浩	首都大学東京大学院理工学研究科修士課程	〃	〃
佐々木 岳彦	東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授	ハイドロタルサイトとメソポーラスマテリアルへの遷移金属イオンの導入	化学分析室 X線測定室 電子顕微鏡室

大友 順一郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授	高温高压水を用いた有機 - 無機複合微粒子合成手法の 開発	化学分析室 X線測定室 電子顕微鏡室
生駒 健太郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程	”	”
大友 順一郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授	SOFC 製造プロセスにおける微量元素挙動と電池性能 の評価及び高性能化	”
大石 淳 矢	東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程	”	”
大友 順一郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授	プロトン伝導性電解質を用いた中温作動燃料電池の燃 料極の高効率化	”
嶋田 五百里	東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程	”	”
大友 順一郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授	全固体二次電池を目指した無機イオン伝導体の開発	”
高坂 文彦	東京大学大学院新領域創成科学研究科 修士課程	”	”
横道 治男	富山県立大学工学部 准教授	電気化学的手法により強磁場中で合成されたナノカー ボンの形状に関する研究	化学分析室 電子顕微鏡室
楊 少明	東京理科大学理工学部 博士研究員	ナノコイルの成長メカニズムの解明のため、その成長 先端の構造解析を行う	”
陳 秀琴	東京理科大学理工学部 博士研究員	ナノコイルのモルフォロジーの観察及び微細構造の解析	”
和泉 充	東京海洋大学海洋工学部 教授	バルク高温超伝導体および関連磁性酸化物の磁性と構 造組織観察	化学分析室 電子顕微鏡室 電磁気測定室
徐 坤	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科 博士課程	”	”
都築 啓太	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科 博士課程	”	”
西本 一恵	東京理科大学基礎工学部 博士研究員	正 20 面体準結晶及び近似結晶の構造相転移	”
大友 順一郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授	高温高压水中におけるグリセリンの固体酸塩基触媒反応	X線測定室
秋月 信	東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程	”	”
佐藤 英行	首都大学東京大学院理工学研究科 教授	高圧育成 $\text{SmTr}_4\text{As}_{12}(\text{Tr}:\text{Ru},\text{Os})$ 単結晶の充填率・結晶 性評価	”
前田 達矢	首都大学東京大学院理工学研究科 修士課程	”	”
本間 格	東北大学多元物質科学研究所 教授	高性能リチウム二次電池電極材料の高分解能電子顕微 鏡による構造解析	電子顕微鏡室
苫居 高明	東北大学多元物質科学研究所 助教	”	”
デバラジャ ケンベア	東北大学多元物質科学研究所 産学官連携研究員	”	”
デニッシュ ランガッパ	東北大学多元物質科学研究所 JSPS 外国人特別研究員	”	”
斉木 幸一朗	東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授	化学的剥離グラフェンの原子構造観察	”
シュタウス スヴェン	東京大学大学院新領域創成科学研究科 助教	超臨界流体プラズマによるカーボンナノマテリアルの 合成とその評価	”
斎藤 康也	東京大学大学院新領域創成科学研究科 修士課程	”	”
シュタウス スヴェン	東京大学大学院新領域創成科学研究科 助教	超臨界流体キセノンと二酸化炭素雰囲気中における、 誘電体バリア放電プラズマによるカーボンナノマテリ アルの合成及びその評価	”
静野 朋季	東京大学大学院新領域創成科学研究科 修士課程	”	”

山本 稔	徳島大学先端技術科学教育部 博士課程	軟 X 線レーザー干渉計の分解能評価および軟 X 線スペ ックルパターン評価のための試料作製	電子顕微鏡室
齋藤 哲治	千葉工業大学工学部 教授	有機磁性材料の構造解析	〃
田村 隆治	東京理科大学基礎工学部 准教授	Fe 基磁性材料の TEM 観察	〃
公文 翔一	東京理科大学大学院基礎工学研究科 修士課程	〃	〃
陶 究	産業技術総合研究所ナノシステム研究部門 研究員	マイクロミキサを用いた機能性ナノ粒子の連続水熱合成	〃
細野 英司	産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門 研究員	ナノ構造制御による二次電池、超撥水、太陽電池等の 機能性材料開発	〃
岡垣 淳	産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門 研究員	Li-Cu 電池における銅デンドライト成長の抑制	〃
北浦 弘和	産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門 研究員	全固体リチウム-空気電池および中温作動型リチウム イオン二次電池の構築と評価	〃
シュタウス スヴェン	東京大学大学院新領域創成科学研究科 助教	超臨界流体レーザーアブレーションによるナノ微粒子 合成	電子顕微鏡室 光学測定室
加藤 暢	東京大学工学部 ※学部4年	〃	〃
バイ デイビッド	東京大学大学院新領域創成科学研究科 特別研究員	超臨界流体キセノンと二酸化炭素雰囲気中における、誘 電体バリア放電プラズマとパルスレーザーアブレーション によるカーボンナノマテリアルの合成及びその評価	〃
長谷川 正	名古屋大学大学院工学研究科 教授	高分子前駆体高圧合成法で得られた新物質の磁気特性	電磁気測定室
平野 力	名古屋大学大学院工学研究科 修士課程	〃	〃
山田 幾也	愛媛大学大学院理工学研究科 助教	新規鉄ペロブスカイトの高圧合成・構造・物性	〃
恵谷 英宜	愛媛大学大学院理工学研究科 ※学部4年	〃	〃
山田 幾也	愛媛大学大学院理工学研究科 助教	貴金属ペロブスカイト・ポストペロブスカイトの物性	〃
越智 美紀子	愛媛大学大学院理工学研究科 ※学部4年	〃	〃
村岡 祐治	岡山大学大学院自然科学研究科 准教授	ルチル型金属酸化物における新規物性探索	〃
長尾 浩樹	岡山大学大学院自然科学研究科 ※学部4年	〃	〃
重田 出	鹿児島大学大学院理工学研究科 助教	ハーフメタル型ホイスラー合金の磁性と輸送特性に関 する研究	〃
吉田 喜孝	いわき明星大学科学技術学部 教授	金属炭化物微粒子の超伝導磁気特性	〃
田村 隆治	東京理科大学基礎工学部 准教授	正 20 面体クラスター構造を有する準結晶と近似結晶の 低温物性	〃
廣戸 孝信	東京理科大学大学院基礎工学研究科 修士課程	〃	〃
秋津 貴城	東京理科大学理学部第二部 講師	嵩高いキラルシッフ塩基 3d-4f 金属錯体の磁性	〃
鶴殿 治彦	茨城大学工学部 准教授	シリサイド系半導体単結晶の光学特性評価	光学測定室

長期留学研究員

氏名	所属	研究題目	関係所員
田中 斗志貴	日本大学大学院総合基礎科学研究科 博士課程	Yb系化合物 $\text{YbCo}_2\text{Zn}_{20}$ 、 YbNi_3Al_9 の磁気構造と電子状態	上 床
北川 哲	奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科 修士課程	2DAED-XMCD 法による単結晶 $\text{Sr}_2\text{FeMoO}_6$ のサイト選択的磁氣的構造解析	松田 (誠)
三田 稔	九州大学大学院理学府 修士課程	二次元量子スピン直交三量体系の磁気構造と磁気励起	佐藤

短期留学研究員

氏名	所属	研究題目	関係所員
那波 和宏	京都大学理学研究科 博士課程	低次元酸化物 LiCuVO_4 および Sr_2VO_4 における NMR による多極子秩序の観測	瀧川

平成23年度前期 スーパーコンピュータ共同利用採択課題一覧

代表者	所属	タイトル
溝口 照康	東京大学生産技術研究所 准教授	酸化物セラミックス粒界における原子拡散の第一原理計算
小林 功佳	お茶の水女子大学理学部物理学科 教授	新たなナノスケール界面の電子物性の探索
川口 由紀	東京大学大学院理学系研究科物理学専攻 助教	冷却原子気体における多体効果
荒木 武昭	京都大学大学院理学研究科物理学・宇宙物理学専攻 准教授	多孔質に閉じ込めたソフトマターのダイナミクス
島 弘幸	北海道大学大学院工学研究院 助教	曲面ナノカーボンが示す異常な光励起キャリア緩和の理論解明
矢久保 考介	北海道大学大学院工学研究院 教授	フラクタル空間に埋め込まれた複雑ネットワークの大域的効率
服部 賢	奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科 准教授	Si 表面上の原子吸着系のモデル計算
磯部 雅晴	名古屋工業大学 助教	剛体球系の非平衡輸送と大規模分子動力学シミュレーション
大槻 東巳	上智大学理工学部 教授	金属-トポロジカル絶縁体転移の臨界現象
寺尾 貴道	岐阜大学工学部 准教授	ソフトコロイド系に関する計算機シミュレーション
羽田野 直道	東京大学生産技術研究所 准教授	量子熱電効果の数値解析
山内 淳	慶應義塾大学理工学部 准教授	半導体中並びに界面における不純物電子物性の第一原理的研究
斉藤 真司	分子科学研究所 教授	多時間相関関数を用いた凝縮系ダイナミクスの理論計算
川村 光	大阪大学理学研究科 教授	地震の統計モデルの数値シミュレーション
古賀 裕明	北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター 助教	GaAs(111)B 表面におけるナノスケール再構成過程
島崎 智実	東北大学 助教	水素の量子化を考慮した Gaussian and Fourier Transform (GFT)法による凝集系の第一原理シミュレーション
三宅 隆	産総研ナノシステム研究部門 主任研究員	スピン軌道相互作用を考慮した第一原理計算
野々山 信二	山形大学地域教育文化学部 教授	強磁性金属表面における微小磁性体のスピンと磁気励起
川口 高明	山梨大学 教育人間科学部 准教授	超伝導接合系における一方向性運動と非線形現象
野口 博司	東京大学物性研究所 准教授	脂質ベシクルのダイナミクス
宮崎 州正	筑波大学数理物質科学研究科物理学専攻 准教授	ガラス転移と動的不均一性
藤原 進	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科 准教授	両親媒性分子による高次構造形成の大規模分子シミュレーション
勝木 厚成	日本大学理工学部 助手	環境変化による砂丘形態の変化
岩田 潤一	筑波大学計算科学研究センター 助教	大規模第一原理計算による半導体デバイス物理の研究
佐藤 幸生	東京大学総合研究機構 助教	金属/酸化物界面の電子構造とダイナミクスの原子論的研究
石井 史之	金沢大学理工研究域 助教	実空間・運動量空間におけるノンコリニア磁性の第一原理計算

川 勝 年 洋	東北大学大学院理学研究科物理学専攻 教 授	粒子-連続場 ハイブリッド法によるソフトマター系の自己組織 構造のシミュレーション
溜 淵 継 博	静岡大学理学部 准教授	ランダム・イジング系における厳密数値計算
押 川 正 毅	東京大学物性研究所 教 授	エンタングルメント・スペクトルによる1次元量子相の分類
儀 田 誠	香川大学教育学部 教 授	三角形フラストレーション
芝 隼 人	東京大学物性研究所 助 教	溶媒効果を陽に取り入れた生体膜模型の粗視化分子動力学
村 岡 幹 夫	秋田大学大学院工学資源学研究科機械工学専攻 准教授	ナノ構造体の力学特性-金属被覆ナノコイル形成メカニズムの調 査-
利根川 孝	神戸大学大学院理学研究科 名誉教授	空間構造をもつ次元量子スピン系の数値的研究
原 田 健 自	京都大学大学院情報学研究科 助 教	テンソルネットワーク変分法を用いたフラストレーションのあ る量子スピン系の基底状態計算
鈴 木 通 人	日本原子力研究開発機構 研究員	第一原理手法による多極子秩序状態の電子構造計算
高河原 俊 秀	京都工芸繊維大学 教 授	電子・光子・核スピン結合系の量子状態制御の理論的研究
内 田 尚 志	北海道工業大学 教 授	第一原理分子動力学磁気構造理論の改良とその Mn ₃ Pt への応用
渡 辺 宙 志	東京大学物性研究所 助 教	多重気泡生成過程の大規模分子動力学シミュレーション
田 中 宗	近畿大学 博士研究員	量子情報理論に立脚した古典・量子推定問題の研究
初 貝 安 弘	筑波大学大学院数理物質科学研究科物理学系 教 授	物性論におけるトポロジカルな効果の数値的研究
大久保 毅	大阪大学理学研究科 特任研究員	カイラルスピン系の秩序化とダイナミクス
柳 瀬 陽 一	新潟大学理学部物理学科 准教授	微視的理論によるエキゾチック超伝導へのアプローチ
斎 藤 峯 雄	金沢大学理学部計算科学科 教 授	ナノ構造の大規模第一原理計算
松 下 勝 義	大阪大学 CMC PD	天然変性タンパク質の結合折りたたみの数値的研究
飛 田 和 男	埼玉大学大学院理工学研究科物質科学部門 教 授	1次元フラストレート量子スピン系の数値的研究
小 口 多美夫	大阪大学産業科学研究所 教 授	遷移金属化合物の第一原理計算
山 内 邦 彦	大阪大学産業科学研究所 助 教	コバルト酸化物における強誘電性メカニズムの第一原理手法に よる研究
三 澤 貴 宏	東京大学大学院工学研究科理工学専攻 助 教	幾何学的フラストレーションの強い系における異常な伝導特性 の数値的研究
宇田川 将 文	東京大学大学院工学系研究科理工学専攻 助 教	幾何学的フラストレーション下における軌道・スピン・電荷自 由度の競合と協調
星 健 夫	鳥取大学大学院工学研究科機械宇宙工学専攻応用数理工学講座 准教授	第一原理に基づく超大規模電子構造計算手法の開発と応用
笠 井 秀 明	大阪大学大学院工学研究科 教 授	第一原理計算による固体表面ナノ領域における反応解析
西 館 数 芽	岩手大学工学部 准教授	効率的な窒素酸化物還元触媒についての研究
安 田 千 寿	琉球大学理学部 准教授	スピン-フォノン間相互作用のある系における相転移
梯 祥 郎	琉球大学理学部物理系 教 授	第1原理動的 CPA 理論に基づく反強磁性遷移金属の理論的研究
獅子堂 達 也	広島大学大学院先端物質科学研究科 助 教	空間反転対称性を破る超伝導体の第一原理計算
下 條 冬 樹	熊本大学大学院自然科学研究科 教 授	高圧下における共有結合性液体の動的性質の第一原理計算

野口良史	東京大学物性研究所 助 教	第一原理グリーン関数法による高精度励起状態計算
灘浩樹	産業技術総合研究所 主任研究員	氷の成長形と融解形の非対称性に関する分子動力学シミュレーション研究
藤原毅夫	東京大学大学院総合教育研究センター 特任教授	複手法による第一原理電子構造計算の拡張
淵崎員弘	愛媛大学理工学研究科 教 授	非平衡準安定状態での遅い緩和過程
堀田貴嗣	首都大学東京理工学研究科物理学専攻 准教授	多極子揺らぎによるエキゾチック超伝導の研究
合田義弘	東京大学大学院理学系研究科物理学専攻 助 教	欠陥による金属/半導体界面電子状態への影響
吉本芳英	鳥取大学工学研究科機械宇宙工学専攻数理工学講座 准教授	水分子系のマルチカノニカル法と第一原理計算によるモデル化
矢花一浩	筑波大学計算科学研究センター 教 授	光と物質の相互作用に対する実時間第一原理計算
品岡寛	産業技術総合研究所 特別研究員	局所的な格子歪みと結合したパイロクロア反強磁性体におけるスピングラス転移
福井賢一	大阪大学大学院基礎工学研究科 教 授	第一原理分子動力学法による水溶液中のレドックス活性種の酸化還元電位評価
江上喜幸	長崎大学先端計算研究センター 助 教	第一原理に基づく量子輸送シミュレーションプログラムの開発と応用
北尾彰朗	東京大学分子細胞生物学研究所 准教授	分子シミュレーションによる生体高分子の NMR 緩和データ解析
佐藤徹哉	慶應義塾大学理工学部 教 授	第一原理計算による電界を印加された Pd 薄膜における強磁性の発現に関する研究
今田正俊	東京大学工学系研究科理工学専攻 教 授	トポロジカル絶縁体における電子相関の数値的研究
松川宏	青山学院大学理工学部 教 授	摩擦の物理
中村浩次	三重大学大学院工学研究科理工学専攻 准教授	遷移金属界面における電場誘起磁性
平井國友	奈良県立医科大学医学部物理学 教 授	層状人工格子界面の電子状態と近接効果
小畑修二	東京電機大学理工学部 准教授	複合構造炭素材料の電子構造計算
川上則雄	京都大学大学院理学研究科物理学宇宙物理学専攻 教 授	極低温冷却原子気体の量子凝縮相とダイナミクスの解析
富田裕介	東京大学物性研究所 助 教	可変長スピン系のダイナミクス
稲岡毅	琉球大学理学部 教 授	半導体表面に創成された低次元電子系の物性とその制御
望月祐志	立教大学理学部化学科 教 授	フラグメント分子軌道法の機能性分子への応用
森川良忠	大阪大学大学院工学研究科精密科学・応用物理学専攻 教 授	界面における構造・電子状態、および、反応過程の第一原理シミュレーション
野澤和生	中央大学理工学部物理学科 教育技術員	第一原理計算による準結晶表面上の擬似格子整合成長に関する研究
川村光	大阪大学理学研究科 教 授	フラストレート磁性体における新奇秩序
杉野修	東京大学物性研究所 准教授	酸化物触媒
渡辺一之	東京理科大学理学部 教 授	外場と相互作用するナノスケール構造の非平衡電子過程の第一原理計算
小野倫也	大阪大学大学院工学研究科精密科学・応用物理学専攻 助 教	第一原理輸送特性計算手法の開発と大規模輸送特性シミュレーション
宮下精二	東京大学理学系研究科物理学専攻 教 授	多様な内部自由度を持つ系での新奇な相転移
坂井徹	日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門 研究主幹	カゴメ格子反強磁性体の数値対角化による研究

常行真司	東京大学大学院理学系研究科物理学専攻 教授	波動関数理論による凝縮系の第一原理電子状態計算
奥山弘	京都大学大学院理学研究科 准教授	Cu(110) に作製した OH 鎖のエネルギー計算
尾関之康	電気通信大学情報理工学研究科 准教授	動的臨界現象を中心とした普遍性の非平衡緩和解析
小淵智之	大阪大学理学研究科 特任研究員	カイラル自由度のフラストレート磁性体における役割とスピン グラス秩序への影響
鈴木隆史	東京大学物性研究所 助教	シャストリーサザランド格子を持つ希土類化合物の部分成分秩 序状態
福島孝治	東京大学大学院総合文化研究科 准教授	格子ガラス系の熱平衡相転移
中野博生	兵庫県立大学大学院物質理学研究科 助教	量子スピン系の低エネルギー状態に関する数値的研究
藤本義隆	東京工業大学大学院理工学研究科物性物理学専攻 特任助教	ナノチューブ・グラフェンの窒素ドーピングによる原子・電子 構造多様性の解明
足立高弘	秋田大学工学資源学部機械工学科 准教授	微細横溝加工を施した鉛直平板を流れる凝縮液膜流の熱輸送特 性
押山淳	東京大学工学系研究科 教授	ハード及びソフトナノ物質の原子構造と電子物性
レービガー ハンネス	横浜国立大学大学院工学研究院物理工学コース 助教	電子デバイスのための自己組織化ナノインターフェイスの理論
小田竜樹	金沢大学理工研究域数物科学系 教授	表面・界面の原子構造と電子構造に現れる有効電場効果
神谷克政	筑波大学 助教	量子論に基づくバイオ・ナノ構造体の機能・構造・電子状態の 相関関係の研究
遠山貴己	京都大学基礎物理学研究所 教授	動的密度行列繰り込み群法による低次元量子スピン系・電子系 の励起ダイナミクス研究
館山佳尚	物質・材料研究機構国際ナノアーキテクトニクス研究拠点 独立研究者	固液界面の酸化還元・光化学反応の第一原理 MD サンプリング 解析の確立
渡邊聡	東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻 教授	ナノデバイスに向けた電子/イオン/熱輸送の理論解析
有田亮太郎	東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻 准教授	第一原理 downfolding に基づく炭素系超伝導体の研究
中山隆史	千葉大学理学部物理学科 教授	有機半導体中の金属原子による不純物準位の形成理論
川島直輝	東京大学物性研究所 教授	光格子上のボーズ原子系におけるペア超流動状態の量子モンテ カルロシミュレーション
岡田晋	筑波大学大学院数理物質科学研究科 准教授	ナノスケール炭素物質の物性解明
柳澤将	大阪大学大学院工学研究科精密科学・応用物理学専攻 特任研究員	大規模並列第一原理計算による有機結晶・薄膜バンド構造の精 密計算
首藤健一	横浜国立大学・工学部 准教授	Si(001)表面に於ける Ti 吸着サイトに依存した XPS のコアレベ ルシフトの解析(III)
柳沢孝	産業技術総合研究所 研究グループ長	量子モンテカルロ法と第一原理計算による相関電子系の研究
塚田捷	東北大学原子分子材料科学高等研究機構 教授	SPM 系・固液界面系の構造と物性
赤木和人	東北大学原子分子材料科学高等研究機構 准教授	固液界面における電解質水溶液の性質
佐藤年裕	東京大学物性研究所 特任研究員	幾何学的フラストレート電子系における輸送特性の研究
稲垣耕司	大阪大学大学院工学研究科 助教	第一原理計算による CARE 加工プロセスの解明
小林伸彦	筑波大学数理物質科学研究科電子・物理工学専攻 准教授	ナノ構造の量子伝導の第一原理計算
沖津康平	東京大学 大学院工学系研究科 助手	多波回折法による結晶構造因子位相決定法の研究
阪上雅昭	京都大学大学院人間・環境学研究科 教授	長距離相互作用系の準定常状態の進化

萩田 克美	防衛大学校応用科学群応用物理学科 講師	実在のポリマー／フィラー系に関する大規模シミュレーション法の開発
藤堂 眞治	東京大学大学院工学系研究科 講師	詳細釣り合いを満たさないモンテカルロ法の量子スピン系への応用
幾原 雄一	東京大学大学院工学系研究科総合研究機構 教授	酸化物の機能性界面の第一原理計算
大谷 実	産業技術総合研究所 グループ長	炭素系材料複合構造体の物性解明
五十嵐 亮	日本原子力研究開発機構 特定課題推進員	超伝導ミクروسケールのシミュレーション
ロウ ジェ	東京大学物性研究所 Post Doc	2次元量子スピン系に対する MERA を用いた研究
服部 一匡	東京大学物性研究所 助教	多自由度強相関電子系の数値シミュレーション
吉野 元	大阪大学理学研究科 助教	構造ガラスのマイクロロロジーに関する数値実験
岡本 祐幸	名古屋大学大学院理学研究科 教授	拡張アンサンブル法による脂質二重膜系の相転移の研究
舘野 賢	筑波大学計算科学研究センター 准教授	ハイブリッド ab initio 電子構造計算および拡張アンサンブル MD 計算による生体システムの動力学的解析

平成 23 年度 中性子回折装置共同利用採択課題一覧

研究代表者	所 属	研 究 題 目	申請装置
佐藤 卓	東京大学物性研究所 准教授	GPTAS(汎用 3 軸中性子分光器)IRT 課題	4G:GPTAS
網塚 浩	北海道大学理学研究院 教授	重い電子系 URu ₂ Si ₂ の磁気励起	4G:GPTAS
網塚 浩	北海道大学理学研究院 教授	La _{1-x} U _x Ru ₂ Si ₂ (x > 0.9) における磁気秩序構造と磁気励起	4G:GPTAS
阿曾 尚文	琉球大学理学部 准教授	空間反転対称性のない超伝導体 CeIrSi ₃ の非整合磁気構造	4G:GPTAS
阿曾 尚文	琉球大学理学部 准教授	空間反転対称性のない超伝導体 CeIrSi ₃ の磁気励起	4G:GPTAS
阿曾 尚文	琉球大学理学部 准教授	量子臨界点近傍にある YbCo ₂ Zn ₂₀ の磁気励起	4G:GPTAS
藤原 哲也	山口大学理工学研究科 助教	ThCr ₂ Si ₂ 型フォスファイド EuCo ₂ P ₂ の磁気構造解析	4G:GPTAS
門脇 広明	首都大学東京理工学研究科 准教授	スピンアイスにおけるトポロジカル相転移	4G:GPTAS
亀田 恭男	山形大学理学部 教授	14N/15N および H/D 同位体置換法中性子回折による溶液中における核酸分子水分子間構造の直接決定	4G:GPTAS
松林 和幸	東京大学物性研究所 助教	YbCo ₂ Zn ₂₀ における圧力誘起磁気秩序相の研究	4G:GPTAS
元屋 清一郎	東京理科大学理工学部 教授	時間分割中性子散乱測定による磁気秩序形成過程の実時間追跡	4G:GPTAS
野田 幸男	東北大学多元物質科学研究所 教授	YMn ₂ O ₅ のマグノンと磁気相互作用	4G:GPTAS
小野 俊雄	東京工業大学理工学研究科 助教	カゴメ格子物質(Rb _{1-x} Cs _x) ₂ Cu ₃ SnF ₁₂ の中性子散乱	4G:GPTAS
佐藤 憲昭	名古屋大学理学研究科 教授	重い電子系反強磁性体 CeTe ₃ における多重相転移と量子臨界現象	4G:GPTAS
佐藤 卓	東京大学物性研究所 准教授	Dy ₃ Al ₅ O ₁₂ ガーネットにおけるクーロン相の探索	4G:GPTAS
佐藤 卓	東京大学物性研究所 准教授	新しい籠状物質 PrV ₂ Al ₂₀ の四極子転移と結晶場励起	4G:GPTAS
佐藤 卓	東京大学物性研究所 准教授	s=1/2 籠目格子反強磁性体 volborthite の磁気励起	4G:GPTAS
田畑 吉計	京都大学工学研究科 准教授	新しいタイプの遍歴電子フラストレート磁性体 M3T3X の動的スピン相関	4G:GPTAS
梅林 泰宏	九州大学理学研究院 准教授	6Li/7Li 同位体置換中性子回折法によるイオン液体を用いた高安全性リチウム 2 次電池電解液中のリチウムイオン溶媒和構造	4G:GPTAS
上床 美也	東京大学物性研究所 准教授	10GPa 級中性子散乱実験用圧力発生装置の開発	4G:GPTAS
山崎 照夫	東京大学物性研究所 博士研究員	遍歴電子系パイロクロア化合物 YMn ₂ Zn _(20-x) In _x の磁気揺らぎ	4G:GPTAS
横山 淳	茨城大学理学部 准教授	重い電子系ウラン化合物の隠れた秩序に対する一軸応力効果	4G:GPTAS
鄭 旭光	佐賀大学工学系研究科 教授	単結晶を用いた幾何学的フラストレーション量子磁性体 Cu ₂ (OD) ₃ Cl(Clinoatacamite) の磁性研究 II	4G:GPTAS
李 哲虎	産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門 研究員	ホールドーブ鉄系超伝導体のスピン揺動	4G:GPTAS
李 哲虎	産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門 研究員	β-パイロクロアのフォノンダイナミクス	4G:GPTAS

網塚 浩	北海道大学理学研究院 教授	UPd ₂ Si ₂ におけるフラストレートした反強磁性相関の1軸応力および静水圧効果	4G:GPTAS
浅野 貴行	九州大学理学研究院 助教	二次元量子スピン直交三量体系の磁気構造と磁気励起	4G:GPTAS
藤原 哲也	山口大学理工学研究科 助教	重い電子系新物質 Ce ₂ Pt ₃ Ge ₅ の磁気構造解析	4G:GPTAS
藤原 哲也	山口大学理工学研究科 助教	ThCr ₂ Si ₂ 型フォスファイド EuRu ₂ P ₂ の磁気構造解析	4G:GPTAS
古川 はづき	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 教授	BaFe ₂ (AS,P) ₂ の磁性と超伝導	4G:GPTAS
古川 はづき	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 教授	RENi ₂ B ₂ Cの磁性と超伝導	4G:GPTAS
元屋 清一郎	東京理科大学理工学部 教授	磁気構造の長時間変化と希釈効果	4G:GPTAS
茂吉 武人	東京理科大学理工学部 助教	三角格子系 Ca ₃ Co ₂ O ₆ および Ca ₃ CoMnO ₆ の磁気構造の長時間変化	4G:GPTAS
佐藤 憲昭	名古屋大学理学研究科 教授	強磁性超伝導体 UCoGe におけるスピン揺らぎの研究	4G:GPTAS
佐藤 憲昭	名古屋大学理学研究科 教授	重い電子系超伝導体 CeRh _(1-x) Ir _x In ₅ における磁性の研究	4G:GPTAS
重松 宏武	山口大学教育学部 准教授	強誘電体の相転移機構(変位型及び秩序無秩序型)に関する統一的理解の確立	4G:GPTAS
益田 隆嗣	東京大学物性研究所 准教授	PONTA(高性能偏極中性子散乱装置)IRT 課題	5G:PONTA
林 好一	東北大学金属材料研究所 准教授	PONTA(高性能偏極中性子散乱装置)IRT 課題 偏極中性子線を用いた磁気散乱中性子線ホログラフィー	5G:PONTA-2
有馬 孝尚	東北大学多元物質科学研究所 教授	FeV ₂ O ₄ における磁性と軌道自由度の相関	5G:PONTA
藤田 全基	東北大学金属材料研究所 准教授	電子ドープ型銅酸化物の反強磁性・超伝導転移に伴う磁気相関の変化	5G:PONTA
古川 はづき	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 教授	RENi ₂ B ₂ Cの磁性と超伝導	5G:PONTA
益田 隆嗣	東京大学物性研究所 准教授	S=1/2 擬次元フラストレート鎖 PbCu(OH) ₂ (SO ₄)の磁気励起	5G:PONTA
松岡 由貴	奈良女子大学理学部 助教	MnRh 合金の磁気構造精密決定とクラスターガラス相の探求	5G:PONTA
元屋 清一郎	東京理科大学理工学部 教授	時間分割中性子散乱測定による磁気秩序形成過程の実時間追跡	5G:PONTA
元屋 清一郎	東京理科大学理工学部 教授	磁気構造の長時間変化と希釈効果	5G:PONTA
茂吉 武人	東京理科大学理工学部 助教	三角格子系 Na _x NiO ₂ の磁気構造	5G:PONTA
中島 多朗	東京理科大学理学部 助教	マルチフェロイック CuFeO ₂ における2軸圧力による磁気・強誘電ドメイン配向制御	5G:PONTA
西 正和	早稲田大学先進理工学部 講師	三角格子反強磁性体 RbCuCl ₃ 磁気励起	5G:PONTA
大山 研司	東北大学金属材料研究所 准教授	偏極度解析回折実験による強磁性金属ガラスでの磁気相関の研究	5G:PONTA
佐賀山 基	東北大学多元物質科学研究所 助教	マルチフェロイック Mn ₃ O ₄ の高磁場領域におけるスピン配列の変化	5G:PONTA
佐藤 正俊	名古屋大学理学研究科 教授	鉄系超伝導体単結晶のフォノンと磁気励起	5G:PONTA
佐藤 憲昭	名古屋大学理学研究科 教授	強磁性超伝導体 UCoGe におけるスピン揺らぎの研究	5G:PONTA
左右田 稔	大阪大学基礎工学研究科 博士研究員	磁性イオンをもつリクサー誘電体におけるナノ磁気ドメインの電場制御	5G:PONTA
左右田 稔	大阪大学基礎工学研究科 博士研究員	六方晶フェライトにおけるブロック構造と電気磁気効果	5G:PONTA
田畑 吉計	京都大学工学研究科 准教授	希釈イジング反強磁性体 Ho _x Y _{1-x} Ru ₂ Si ₂ の磁気秩序相における異常スピンドYNAMIXS	5G:PONTA

高橋 美和子	筑波大学数理物質科学研究科 講師	3元合金 CuFePt ₆ の磁気構造	5G:PONTA
高津 浩	首都大学東京理工学研究科 助教	導電性三角格子磁性体 PdCrO ₂ の反強磁性秩序と異常伝導	5G:PONTA
山田 重樹	横浜市立大学生命ナノシステム科学研究科 准教授	ペロブスカイト型 Mn 酸化物 Pr _{1-x} Ca _x MnO ₃ の磁気構造解析	5G:PONTA
安井 幸夫	名古屋大学理学研究科 助教	イリジウム酸化物 Sr ₂ IrO ₄ 、BaIrO ₃ の磁性	5G:PONTA
安井 幸夫	名古屋大学理学研究科 助教	LaCo _{1-x} Rh _x O ₃ : 非磁性状態を end phase に持つ doping によって現れる特異な磁性	5G:PONTA
岩佐 和晃	東北大学理学研究科 准教授	TOPAN(東北大理: 3軸型偏極中性子分光器)IRT課題	6G:TOPAN
秋光 純	青山学院大学理工学部 教授	幾何学的フラストレート系(Mn,Mg)Cr ₂ O ₄ におけるスピン相関の次元クロスオーバー	6G:TOPAN
有馬 孝尚	東北大学多元物質科学研究所 教授	FeV ₂ O ₄ における磁性と軌道自由度の相関	6G:TOPAN
藤田 全基	東北大学金属材料研究所 准教授	新規 T構造ホールドープ銅酸化物 Pr _{2-x} Ca _x CuO ₄ における磁気相関の研究	6G:TOPAN
藤田 全基	東北大学金属材料研究所 准教授	一枚層 Bi2201 銅酸化物高温超伝導体における対角型非整合磁気励起の研究	6G:TOPAN
平賀 晴弘	東北大学金属材料研究所 助教	反強磁性金属(Mn,Fe) ₃ Si における高温/高エネルギー磁気揺らぎ	6G:TOPAN
平賀 晴弘	東北大学金属材料研究所 助教	局在スピンをもつ金属強磁性体の短波長/高エネルギー域における常磁性散乱	6G:TOPAN
飯久保 智	九州工業大学生命体工学研究科 助教	高い反強磁性転移温度をもつ鉄系化合物 TlFe ₂ Se ₂ の中性子散乱	6G:TOPAN
岩佐 和晃	東北大学理学研究科 准教授	NdPd ₃ S ₄ の中性子散乱による磁場誘起四極子秩序の検証	6G:TOPAN
岩佐 和晃	東北大学理学研究科 准教授	PrIr ₂ Zn ₂₀ における非 Kramers 二重項による四極子秩序の検証	6G:TOPAN
岩佐 和晃	東北大学理学研究科 准教授	近藤半導体 CeOs ₄ Sb ₁₂ における磁場によってエンハンスされる秩序変数	6G:TOPAN
岩佐 和晃	東北大学理学研究科 准教授	電子ドーピングした重い電子系 Pr(Fe _{1-x} Co _x) ₄ P ₁₂ の磁気励起	6G:TOPAN
桑原 慶太郎	茨城大学理工学研究科 准教授	Ce _{0.7} La _{0.3} B ₆ の一軸圧下中性子回折	6G:TOPAN
松村 武	広島大学先端物質科学研究科 准教授	CeTeにおける圧力誘起反強四極子秩序	6G:TOPAN
松村 武	広島大学先端物質科学研究科 准教授	Ce _{0.5} La _{0.5} B ₆ におけるIV相秩序変数	6G:TOPAN
松浦 直人	東北大学金属材料研究所 助教	高温超伝導体 LSCOの磁気励起における磁性不純物 Ni 置換効果の研究 II	6G:TOPAN
松浦 直人	東北大学金属材料研究所 助教	高温超伝導体 LSCOにおけるレゾナンスピークの探索	6G:TOPAN
松浦 直人	東北大学金属材料研究所 助教	高温超伝導体 Bi2212の磁気励起における磁性不純物 Ni 置換効果の研究 II	6G:TOPAN
光田 暁弘	九州大学理学研究院 准教授	極低温における単結晶中性子回折による YbPd の磁気構造決定および金属的電荷秩序の検証	6G:TOPAN
富安 啓輔	東北大学理学研究科 助教	水素貯蔵材料アルミニウム錯体水素化物における水素放出過程の回折と非弾性散乱による研究	6G:TOPAN
李 哲虎	産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門 研究員	ホールドープ鉄系超伝導体のスピン揺動	6G:TOPAN
奥山大輔	理化学研究所基幹研究所交差相関物性科学研究グループ 研究員	遷移金属酸化物磁性薄膜におけるエピタキシャル歪み誘起の磁気構造変化	6G:TOPAN
奥山大輔	理化学研究所基幹研究所交差相関物性科学研究グループ 研究員	E-type 反強磁性誘起マルチフェロイックス特性を持つ斜方晶 RMnO ₃ (R=Y, Ho 等)の磁気構造	6G:TOPAN
伊賀文俊	広島大学先端物質科学研究科 准教授	近藤合金 Yb _{1-x} Tm _x B ₆ の結晶場遷移	6G:TOPAN
富安 啓輔	東北大学理学研究科 助教	金属絶縁体転移を示すパイロクロア型酸化物 Nd ₂ Ir ₂ O ₇ における磁性と電気伝導性の関係	6G:TOPAN

横山 淳	茨城大学理学部 准教授	HER(高エネルギー分解能3軸型中性子分光器) IRT 課題	C1-1:HER
阿曾 尚文	琉球大学理学部 准教授	空間反転対称性のない超伝導体 CeIrSi ₃ の磁気励起	C1-1:HER
阿曾 尚文	琉球大学理学部 准教授	量子臨界点近傍にある YbCo ₂ Zn ₂₀ の磁気励起	C1-1:HER
藤田 全基	東北大学金属材料研究所 准教授	新規 T'構造ホールドープ銅酸化物 Pr _{2-x} Ca _x CuO ₄ における磁気相関の研究	C1-1:HER
岩佐 和晃	東北大学理学研究科 准教授	電子ドーピングした重い電子系 Pr(Fe _{1-x} Co _x) ₄ P ₁₂ の磁気励起	C1-1:HER
門脇 広明	首都大学東京理工学研究科 准教授	量子スピンアイスの研究	C1-1:HER
益田 隆嗣	東京大学物性研究所 准教授	酸素吸着 Cu ジカルボン酸の低エネルギー励起	C1-1:HER
益田 隆嗣	東京大学物性研究所 准教授	S=1/2 擬一次元スピン・ギャップ物質 Pb ₂ V ₃ O ₉ の磁気励起	C1-1:HER
満田 節生	東京理科大学理学部 准教授	スピン格子結合系 CuFeO ₂ のスピン波分散関係の一軸応力変化	C1-1:HER
中島 多朗	東京理科大学理学部 助教	マルチフェロイック基底状態を持つ CuFe _{1-x} Ga _x O ₂ の磁気的単ドメイン状態におけるスピン波分散の観測	C1-1:HER
野田 幸男	東北大学多元物質科学研究所 教授	YMn ₂ O ₅ のマグノンと磁気相互作用	C1-1:HER
小野 俊雄	東京工業大学理工学研究科 助教	カゴメ格子物質(Rb _{1-x} Cs _x) ₂ Cu ₃ SnF ₁₂ の中性子散乱	C1-1:HER
佐藤 憲昭	名古屋大学理学研究科 教授	重い電子系反強磁性体 CeTe ₃ における多重相転移と量子臨界現象	C1-1:HER
佐藤 卓	東京大学物性研究所 准教授	Dy ₃ Al ₅ O ₁₂ ガーネットにおけるクーロン相の探索	C1-1:HER
佐藤 卓	東京大学物性研究所 准教授	新しい籠状物質 PrV ₂ Al ₂₀ の四極子転移と結晶場励起	C1-1:HER
田畑 吉計	京都大学工学研究科 准教授	新しいタイプの遍歴電子フラストレート磁性体 M3T3X の動的スピン相関	C1-1:HER
富安 啓輔	東北大学理学研究科 助教	水素貯蔵材料アルミニウム錯体水素化物における水素放出過程の回折と非弾性散乱による研究	C1-1:HER
山崎 照夫	東京大学物性研究所 博士研究員	遍歴電子系パイロクロア化合物 YMn ₂ Zn _(20-x) In _x の磁気揺らぎ	C1-1:HER
鄭 旭光	佐賀大学工学系研究科 教授	atacamite 型四面体構造 Mn ₂ (OD) ₃ Cl, Mn ₂ (OD) ₃ Br のスピン揺らぎ	C1-1:HER
李 哲虎	産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門 研究員	ホールドープ鉄系超伝導体のスピン揺動	C1-1:HER
李 哲虎	産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門 研究員	β-パイロクロアのフォノンダイナミクス	C1-1:HER
網塚 浩	北海道大学理学研究院 教授	La _{1-x} U _x Ru ₂ Si ₂ (x > 0.9) における磁気秩序構造と磁気励起	C1-1:HER
浅野 貴行	九州大学理学研究院 助教	二次元量子スピン直交三量体系の磁気構造と磁気励起	C1-1:HER
藤田 全基	東北大学金属材料研究所 准教授	電子ドーピング型銅酸化物の反強磁性・超伝導転移に伴う磁気相間の変化	C1-1:HER
藤田 全基	東北大学金属材料研究所 准教授	一枚層 Bi2201 銅酸化物高温超伝導体における対角型非整合磁気励起の研究	C1-1:HER
飯久保 智	九州工業大学生命体工学研究科 助教	高い反強磁性転移温度をもつ鉄系化合物 TlFe ₂ Se ₂ の中性子散乱	C1-1:HER
岩佐 和晃	東北大学理学研究科 准教授	(Pr _{1-x} Ce _x)Ru ₄ P ₁₂ のリエントラント型金属-非金属転移における全対称型高次多極子秩序の研究	C1-1:HER
益田 隆嗣	東京大学物性研究所 准教授	S=1/2 擬一次元フラストレート鎖 PbCu(OH) ₂ (SO ₄) の磁気励起	C1-1:HER
佐藤 憲昭	名古屋大学理学研究科 教授	強磁性超伝導体 UCoGe におけるスピン揺らぎの研究	C1-1:HER
佐藤 憲昭	名古屋大学理学研究科 教授	重い電子系超伝導体 CeRh _(1-x) Ir _x In ₅ における磁性の研究	C1-1:HER

繁岡透	山口大学理工学研究科 教授	成分分離逐次磁気転移の研究	C1-1:HER
繁岡透	山口大学理工学研究科 教授	TbCu ₂ Si ₂ の複雑な磁気相図	C1-1:HER
富安啓輔	東北大学理学研究科 助教	金属絶縁体転移を示すパイロクロア型酸化物 Nd ₂ Ir ₂ O ₇ における磁性と電気伝導性の関係	C1-1:HER
山崎照夫	東京大学物性研究所 博士研究員	金属磁性体 MnP における Dzyaloshinsky-Moriya 相互作用の逆効果の検証	C1-1:HER
鄭旭光	佐賀大学工学系研究科 教授	逐次相転移を示した三角格子物質 Co ₂ (OD) ₃ Br の フラストレーション磁性とスピン揺らぎ	C1-1:HER
柴山充弘	東京大学物性研究所 教授	SANS-U(二次元位置測定小角散乱装置)IRT 課題	C1-2:SANS-U
藤井健太	東京大学物性研究所 博士研究員	室温付近で UCST 型相分離を示すイオン液体 /PNIPAm 溶液の構造解析	C1-2:SANS-U
藤井健太	東京大学物性研究所 博士研究員	イオン液体を溶媒とする高分子溶液の圧力誘起相 転移現象	C1-2:SANS-U
古川はづき	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 教授	新規 Fe 系超伝導の磁束研究	C1-2:SANS-U
古川はづき	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 教授	中性子小角散乱実験による Sr ₂ RuO ₄ の異常金属状 態の研究	C1-2:SANS-U
平井光博	群馬大学工学研究科 教授	高分子密集条件下におけるタンパク質の構造とダイ ナミックス	C1-2:SANS-U
井上倫太郎	京都大学化学研究所 助教	小角中性子散乱によるアミロイド線維の形成機構 に関する研究	C1-2:SANS-U
伊藤耕三	東京大学新領域創成科学研究科 教授	コントラスト変調中性子散乱法による環動ゲルの 静的構造と分子ダイナミックスの観察	C1-2:SANS-U
伊藤耕三	東京大学新領域創成科学研究科 教授	コントラスト変調中性子散乱法による環動ゲルの 静的構造と分子ダイナミックスの観察	C1-2:SANS-U
岩瀬裕希	東京大学物性研究所 ポスドク相当	高世代両親媒性デンドリマー凝集体の階層構造の 解析	C1-2:SANS-U
岩瀬裕希	東京大学物性研究所 ポスドク相当	新規に合成された三鎖型界面活性剤が形成する会 合体構造の観察	C1-2:SANS-U
金谷利治	京都大学化学研究所 教授	高分子流動結晶化における高分子量と低分子量成 分の役割	C1-2:SANS-U
金谷利治	京都大学化学研究所 教授	エポキシ樹脂の重合誘起相分離と架橋構造	C1-2:SANS-U
片岡幹雄	奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科 教授	抗がん作用のあるハイブリッドリポソームの構造 と揺らぎの観測	C1-2:SANS-U
松葉豪	山形大学理工学研究科 准教授	高分子の溶融延伸過程における精密構造解析	C1-2:SANS-U
中野実	京都大学薬学研究科 准教授	POPC ナノディスクの構造とダイナミクス	C1-2:SANS-U
中野実	京都大学薬学研究科 准教授	膜貫通ペプチドのフリップフロップ誘起能の評価	C1-2:SANS-U
中野実	京都大学薬学研究科 准教授	膜脂質のダイナミクスに及ぼす膜の曲率の評価	C1-2:SANS-U
岡部哲士	九州大学理学研究院 助教	N-isopropylacrylamide 高分子水溶液における相 分離挙動と疎水性水和の相関関係の分子論的解明	C1-2:SANS-U
貞包浩一朗	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 博士研究員	水/有機溶媒/塩混合溶液系の秩序構造に対する圧 力の効果	C1-2:SANS-U
酒井崇匡	東京大学工学系研究科 助教	結合欠陥を含む Tetra-PEG ゲルの物性と構造	C1-2:SANS-U
酒井崇匡	東京大学工学系研究科 助教	3分岐高分子ユニットからなる Tri-PEG ゲルの静 的構造解析	C1-2:SANS-U
佐久間由香	お茶の水女子大学理学部 博士研究員	後期エンドソームにおける特異的脂質 BMP の分 布の非対称性	C1-2:SANS-U
佐久間由香	お茶の水女子大学理学部 博士研究員	ナノメートルサイズベシクル上でのドメインダイ ナミクス	C1-2:SANS-U
佐久間由香	お茶の水女子大学理学部 博士研究員	自発曲率による脂質分子のソーティング	C1-2:SANS-U

柴山 充弘	東京大学物性研究所 教授	イオン液体を溶媒とした tetra-PEG ゲルの構造解析	C1-2:SANS-U
柴山 充弘	東京大学物性研究所 教授	多糖類複合体の構造解析	C1-2:SANS-U
柴山 充弘	東京大学物性研究所 教授	熱硬化性樹脂の不均一性	C1-2:SANS-U
柴山 充弘	東京大学物性研究所 教授	フェノール樹脂のゲル化	C1-2:SANS-U
柴山 充弘	東京大学物性研究所 教授	毛髪の内構造解析	C1-2:SANS-U
柴山 充弘	東京大学物性研究所 教授	中性子小角散乱法を利用した電界中における懸濁誘電体微粒子の数珠球形成のその場観察	C1-2:SANS-U
柴山 充弘	東京大学物性研究所 教授	燃料電池材料用触媒インクの構造解析	C1-2:SANS-U
杉山 正明	京都大学原子炉実験所 准教授	古細菌 20S プロテアソームと新規発見された形成シャペロン様タンパク質の会合様態の研究	C1-2:SANS-U
杉山 正明	京都大学原子炉実験所 准教授	マルチドメインタンパク質の動的性質の解明	C1-2:SANS-U
高橋 良彰	九州大学先端物質化学研究所 准教授	イオン液体と低分子液体混合系の動的秩序構造の検討	C1-2:SANS-U
高橋 良彰	九州大学先端物質化学研究所 准教授	ひも状ミセルのシアーバンディング領域における構造の不安定性	C1-2:SANS-U
高橋 良彰	九州大学先端物質化学研究所 准教授	セルロースの 1-ブチル-3-メチルイミダゾリウムクロリド溶液中の分子量と回転半径	C1-2:SANS-U
高橋 利幸	佐賀大学工学系研究科 准教授	水およびベンゼン中における硝酸イミダゾリウムイオン液体の会合体形成	C1-2:SANS-U
高橋 利幸	佐賀大学工学系研究科 准教授	冷却によるアルカリ塩アセトニトリル水混合溶液の相分離	C1-2:SANS-U
高野 敦志	名古屋大学工学研究科 准教授	(環状高分子+線状高分子)ブレンド試料中の環状高分子の回転半径に及ぼす線状高分子の添加効果	C1-2:SANS-U
高野 敦志	名古屋大学工学研究科 准教授	結び目を有する環状高分子の溶液中のコンフォメーション	C1-2:SANS-U
上木 岳士	横浜国立大学工学研究院 博士研究員	イオン液体を溶媒に用いたシリカ微粒子分散系に関する研究	C1-2:SANS-U
梅林 泰宏	九州大学理学研究院 准教授	イオン液体を用いた高安全性リチウム 2 次電池電解液中でリチウムイオンが誘起するイオン液体の集団的ダイナミクス	C1-2:SANS-U
山田 悟史	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 助教	脂質二重膜の曲げ弾性係数に対する面内ネットワーク構造の影響	C1-2:SANS-U
横山 英明	東京大学新領域創成科学研究科 准教授	超臨界二酸化炭素で膨潤したブロックコポリマー中の二酸化炭素の空間分布	C1-2:SANS-U
吉田 亨次	福岡大学理学部 助教	イオン液体と界面活性剤の混合物の相分離現象	C1-2:SANS-U
藤原 悟	日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門 研究副主幹	アミロイド線維形成初期過程中間体のダイナミクス II	C1-2:SANS-U
藤原 悟	日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門 研究副主幹	F-アクチンの構造多形性と運動特性の相関 II	C1-2:SANS-U
藤田 雅弘	理化学研究所 研究員	DNA-ナノ粒子コンジュゲート材料における DNA 密生相の解析	C1-2:SANS-U
成田 弘一	産業技術総合研究所環境管理技術研究部門 主任研究員	中性子小角散乱法による白金族抽出における外圍サイズ認識効果の解明	C1-2:SANS-U
古川 はづき	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 教授	RENi2B2C の磁束格子観測によるコア中電子状態の研究	C1-2:SANS-U
川口 正美	三重大学工学研究科 教授	枯渇作用によって誘起されるシリカサスペンションの凝集構造の変化とそのレオロジー応答	C1-2:SANS-U
松葉 豪	山形大学理工学研究科 准教授	ポリアクリロニトリル/DMSO/水系で観測されるゲルの精密構造解析	C1-2:SANS-U
松葉 豪	山形大学理工学研究科 准教授	高分子の延伸過程における分子鎖の変形プロセスの直接観察	C1-2:SANS-U
松岡 秀樹	京都大学工学研究科 准教授	界面不活性イオン性両親媒性高分子ミセルのナノ構造転移...誘電率の効果	C1-2:SANS-U

松岡秀樹	京都大学工学研究科 准教授	温度応答性界面不活性/界面活性転移高分子のミセル形成とナノ構造転移	C1-2:SANS-U
眞山博幸	北海道大学電子科学研究所 助教	小角中性子散乱によるフラクタルポーラスシリカのメソ細孔構造評価	C1-2:SANS-U
宮元展義	福岡工業大学工学部 准教授	無機液晶と複合化されたポリNイソプロピルアクリルアミドゲルの異方的な物性・構造	C1-2:SANS-U
貞包浩一朗	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 博士研究員	メゾ構造形成、または圧力による臨界普遍性の破れ	C1-2:SANS-U
谷口竜王	千葉大学工学研究科 准教授	制御/リビングラジカル重合により調製したコアシェル、中空、およびシリカ複合粒子の構造	C1-2:SANS-U
吉村倫一	奈良女子大学人間文化研究科 准教授	特異な構造を有するフッ素系ジェミニ型界面活性剤が形成する会合体のナノ構造解析	C1-2:SANS-U
大竹淑恵	理化学研究所研究員	ULS(極小角散乱装置)IRT 課題	C1-3:ULS
古坂道弘	北海道大学工学研究科 教授	C1-3 小型集束型小角散乱装置 IRT 課題	C1-3:mfSANS
柴山充弘	東京大学物性研究所 教授	iNSE(中性子スピネコー分光器)IRT 課題	C2-3-1:iNSE
平井光博	群馬大学工学研究科 教授	高分子密集条件下におけるタンパク質の構造とダイナミクス	C2-3-1:iNSE
伊藤耕三	東京大学新領域創成科学研究科 教授	コントラスト変調中性子散乱法による環動ゲルの静的構造と分子ダイナミクスの観察	C2-3-1:iNSE
伊藤耕三	東京大学新領域創成科学研究科 教授	コントラスト変調中性子散乱法による環動ゲルの静的構造と分子ダイナミクスの観察	C2-3-1:iNSE
片岡幹雄	奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科 教授	抗がん作用のあるハイブリッドリポソームの構造と揺らぎの観測	C2-3-1:iNSE
中野実	京都大学薬学研究科 准教授	POPC ナノディスクの構造とダイナミクス	C2-3-1:iNSE
南部雄亮	東京大学物性研究所 助教	カゴメ格子を形成するランガサイトの磁気緩和過程	C2-3-1:iNSE
岡部哲士	九州大学理学研究院 助教	N-isopropylacrylamide 高分子水溶液における相分離挙動と疎水性水和の相関関係の分子論的解明	C2-3-1:iNSE
貞包浩一朗	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 博士研究員	水/有機溶媒/塩混合溶液系の秩序構造に対する圧力の効果	C2-3-1:iNSE
杉山正明	京都大学原子炉実験所 准教授	マルチドメインタンパク質の動的性質の解明	C2-3-1:iNSE
高椋利幸	佐賀大学工学系研究科 准教授	水およびベンゼン中における硝酸イミダゾリウムイオン液体の会合体形成	C2-3-1:iNSE
高椋利幸	佐賀大学工学系研究科 准教授	冷却によるアルカリ塩アセトニトリル 水混合溶液の相分離	C2-3-1:iNSE
梅林泰宏	九州大学 理学研究院 准教授	イオン液体を用いた高安全性リチウム 2 次電池電解液中でリチウムイオンが誘起するイオン液体の集団的ダイナミクス	C2-3-1:iNSE
山田悟史	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 助教	脂質二重膜の曲げ弾性係数に対する面内ネットワーク構造の影響	C2-3-1:iNSE
吉田亨次	福岡大学理学部 助教	イオン液体と界面活性剤の混合物の相分離現象	C2-3-1:iNSE
遠藤仁	日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門 研究員	中性子スピネコー法を用いた Staphylococcal nuclease の水溶液中でのメソスコピックダイナミクス研究	C2-3-1:iNSE
藤原悟	日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門 研究副主幹	アミロイド線維形成初期過程中間体のダイナミクスII	C2-3-1:iNSE
藤原悟	日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門 研究副主幹	F-アクチンの構造多形性と運動特性の相関II	C2-3-1:iNSE
増井友美	日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門 ポスドク相当	トレハロースが脂質膜の構造と揺らぎに与える影響	C2-3-1:iNSE
鈴木伸一	日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門 研究員	重元素イオンを選択的に認識する配位子がつくる逆ミセルの構造	C2-3-1:iNSE
松葉豪	山形大学理工学研究科 准教授	ポリアクリロニトリル/DMSO/水系で観測されるゲルの精密構造解析	C2-3-1:iNSE
高椋利幸	佐賀大学工学系研究科 准教授	アミド誘起によるフッ化アルコール-水混合溶液の相分離	C2-3-1:iNSE

山室 修	東京大学物性研究所 准教授	AGNES(高分解能パルス冷中性子分光器)IRT 課題	C3-1-1:AGNES
林 慶	東北大学工学研究科 助教	マルチフェロイック物質 $\text{CuFe}_{1-x}\text{M}_x\text{O}_2$ ($\text{M}=\text{Al}, \text{Mn}$) の中性子準弾性散乱	C3-1-1:AGNES
金子 文俊	大阪大学理学研究科 准教授	合成ゴムの分子運動に対する超臨界二酸化炭素の 影響	C3-1-1:AGNES
北川 宏	京都大学理学研究科 教授	$\text{M}(\text{OH})(\text{bdc R})$ ($\text{M} = \text{Fe}, \text{Al}$, $\text{bdc} = 1,4$ - $\text{benzenedicarboxylate}$, $\text{R} = \text{NH}_2, \text{OH}, (\text{COOH})_2$) 配位高分子における酸発生基を用いた幅広いプロ トン伝導性の制御	C3-1-1:AGNES
北川 宏	京都大学理学研究科 教授	$\text{M}(\text{OH})(\text{bdc})$ ($\text{M} = \text{Fe}, \text{Al}$, $\text{bdc} = \text{terephthalate}$)系 配位高分子におけるアンモニアを介したプロトン 伝導性とそのメカニズムの解明	C3-1-1:AGNES
古府 麻衣子	東京大学物性研究所 助教	中性子準弾性散乱によるアルキルイミダゾリウム系 イオン液体におけるアルキル鎖運動の系統的研究	C3-1-1:AGNES
丸山 健二	新潟大学理学部 准教授	メタノール水溶液における水分子の拡散ダイナ ミクスと疎水性水和	C3-1-1:AGNES
山口 敏男	福岡大学理学部 教授	メソポーラス有機シリカ中に閉じ込めた水とメタ ノールのダイナミクス	C3-1-1:AGNES
山室 憲子	東京電機大学理工学部 准教授	両性イオン適合溶質グリシンベタインの水溶液の ダイナミクス	C3-1-1:AGNES
山室 修	東京大学物性研究所 准教授	水素ハイドレートのトンネル拡散過程	C3-1-1:AGNES
菊地 龍弥	日本原子力研究開発機構 J-PARC センター 博士研究員	クラスレートハイドレートを形成する水溶液系に おけるエチレンオキシドと水のダイナミクス	C3-1-1:AGNES
日野 正裕	京都大学原子炉実験所 准教授	MINE1(京大炉:多層膜中性子干渉計・反射率 計) IRT 課題	C3-1-2-2:MINE1
日野 正裕	京都大学原子炉実験所 准教授	2次元中性子集光デバイスの開発	C3-1-2-2:MINE1
日野 正裕	京都大学原子炉実験所 准教授	高周波 MIEZE 分光器を用いた量子井戸滞在時間 の実時間測定	C3-1-2-2:MINE1
北口 雅暁	京都大学原子炉実験所 助教	他の装置へ共鳴スピネコーを組み込むためのス ピンプリッパーの開発	C3-1-2-2:MINE1
田崎 誠司	京都大学工学研究科 准教授	中性子スピネ位相イメージングを用いた電流分布 の可視化 III	C3-1-2-2:MINE1
田崎 誠司	京都大学工学研究科 准教授	冷中性子による全断面積測定装置の開発	C3-1-2-2:MINE1
山崎 大	日本原子力研究開発機構 J-PARC センター 研究員	交差角をもつスピネ分波の重ね合わせによる中性 子スピネ干渉	C3-1-2-2:MINE1
日野 正裕	京都大学原子炉実験所 准教授	MINE2(京大炉:多層膜中性子干渉計・反射率 計) IRT 課題	C3-1-2-3:MINE2
藤井 義久	九州大学工学研究院 助教	水と接触した多層積層高分子電解質膜の凝集構造	C3-1-2-3:MINE2
舟橋 春彦	京都大学高等教育研究開発推進機構 教授	経路を完全分離する Jamin 型冷中性子干渉計の開 発と応用(II)	C3-1-2-3:MINE2
日野 正裕	京都大学原子炉実験所 准教授	2次元中性子集光デバイスの開発	C3-1-2-3:MINE2
日野 正裕	京都大学原子炉実験所 准教授	高周波 MIEZE 分光器を用いた量子井戸滞在時間 の実時間測定	C3-1-2-3:MINE2
平山 朋子	同志社大学理工学部 准教授	中性子反射率法による潤滑下摩擦低減のための金 属基板上自己組織化膜の膜厚・密度測定	C3-1-2-3:MINE2
井上 倫太郎	京都大学化学研究所 助教	中性子反射率測定によるポリメチルメタクリレ ート薄膜におけるガラス転移温度の分布	C3-1-2-3:MINE2
井上 倫太郎	京都大学化学研究所 助教	ディップコート薄膜の熱的物性	C3-1-2-3:MINE2
北口 雅暁	京都大学原子炉実験所 助教	他の装置へ共鳴スピネコーを組み込むためのス ピンプリッパーの開発	C3-1-2-3:MINE2
北口 雅暁	京都大学原子炉実験所 助教	基礎物理実験に向けた大型中性子干渉計の開発 II	C3-1-2-3:MINE2
松野 寿生	九州大学工学研究院 准教授	高分子ソフト界面領域におけるタンパク質吸着状 態の解析	C3-1-2-3:MINE2

西直哉	京都大学工学研究科 准教授	イオン液体 固体界面におけるイオン多層構造の 中性子反射率測定による研究	C3-1-2-3:MINE2
田中敬二	九州大学工学研究院 教授	混合液体と接触した高分子界面の凝集構造	C3-1-2-3:MINE2
田崎誠司	京都大学工学研究科 准教授	中性子スピン位相イメージングを用いた電流分布 の可視化 III	C3-1-2-3:MINE2
田崎誠司	京都大学工学研究科 准教授	中性子スピンスプリッターを使った中性子の干渉 長測定	C3-1-2-3:MINE2
林田洋寿	日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門 博士研究員	中性子スピン干渉計による磁気イメージング	C3-1-2-3:MINE2
大原泰明	東京大学物性研究所 助教	HQR(高分解能中性子散乱装置)IRT 課題	T1-1:HQR
藤田全基	東北大学金属材料研究所 准教授	電子ドープ型銅酸化物の反強磁性・超伝導転移に 伴う磁気相間の変化	T1-1:HQR
藤原哲也	山口大学理工学研究科 助教	ThCr ₂ Si ₂ 型フッソファイド EuCo ₂ P ₂ の磁気構造 解析	T1-1:HQR
藤原哲也	山口大学理工学研究科 助教	重い電子系新物質 Ce ₂ Pt ₃ Ge ₅ の磁気構造解析	T1-1:HQR
藤原哲也	山口大学理工学研究科 助教	ThCr ₂ Si ₂ 型フッソファイド EuRu ₂ P ₂ の磁気構造 解析	T1-1:HQR
陰山洋	京都大学工学研究科 教授	異常高原子価鉄を持つ(Ba,Sr)FeO ₃ の磁気構造の 解明	T1-1:HQR
片野進	埼玉大学理工学研究科 教授	空間反転対称性を欠く系 CeNiC ₂ の磁気構造	T1-1:HQR
満田節生	東京理科大学理学部 准教授	スピン格子結合系 CuFeO ₂ のスピン波分散関係の 一軸応力変化	T1-1:HQR
満田節生	東京理科大学理学部 准教授	磁性イオン置換したスピン誘導型強誘電体 CuFeO ₂ の交差相関物性	T1-1:HQR
元屋清一郎	東京理科大学理工学部 教授	時間分割中性子散乱測定による磁気秩序形成過程 の実時間追跡	T1-1:HQR
元屋清一郎	東京理科大学理工学部 教授	磁気構造の長時間変化と希釈効果	T1-1:HQR
茂吉武人	東京理科大学理工学部 助教	三角格子系 Na _x NiO ₂ の磁気構造	T1-1:HQR
中島多朗	東京理科大学理学部 助教	マルチフェロイック CuFeO ₂ における2軸圧力に よる磁気・強誘電ドメイン配向制御	T1-1:HQR
西正和	早稲田大学先進理工学部 講師	三角格子反強磁性体 RbCuCl ₃ の磁気励起	T1-1:HQR
佐藤正俊	名古屋大学理学研究科 教授	マルチフェロイック物質 YBaCuFeO ₅ の磁気構造	T1-1:HQR
佐藤憲昭	名古屋大学理学研究科 教授	重い電子系反強磁性体 CeTe ₃ における多重相転移 と量子臨界現象	T1-1:HQR
重松宏武	山口大学教育学部 准教授	強誘電体の相転移機構(変位型及び秩序 無秩序 型)に関する統一的理解の確立	T1-1:HQR
繁岡透	山口大学理工学研究科 教授	成分分離逐次磁気転移の研究	T1-1:HQR
繁岡透	山口大学理工学研究科 教授	TbCu ₂ Si ₂ の複雑な磁気相図	T1-1:HQR
留野泉	秋田大学教育文化学部 教授	立方晶 BaTiO ₃ のフォノンの温度依存性	T1-1:HQR
上床美也	東京大学物性研究所 准教授	10GPa 級中性子散乱実験用圧力発生装置の開発	T1-1:HQR
安井幸夫	名古屋大学理学研究科 助教	マルチフェロイック物質 PbCuSO ₄ (OH) ₂ の磁気構 造	T1-1:HQR
安井幸夫	名古屋大学理学研究科 助教	LaCo _{1-x} Rh _x O ₃ : 非磁性状態を end phase に持つ doping によって現れる特異な磁性	T1-1:HQR
鄭旭光	佐賀大学工学系研究科 教授	逐次相転移を示した三角格子物質 Co ₂ (OD) ₃ Br の フラストレーション磁性とスピン揺らぎ	T1-1:HQR
鄭旭光	佐賀大学工学系研究科 教授	atacamite 型四面体構造 Mn ₂ (OD) ₃ Cl, Mn ₂ (OD) ₃ Br のスピン揺らぎ	T1-1:HQR

茂吉 武人	東京理科大学理工学部 助教	三角格子系 $\text{Ca}_3\text{Co}_2\text{O}_6$ および $\text{Ca}_3\text{CoMnO}_6$ の磁気構造の長時間変化	T1-1:HQR
重松 宏武	山口大学教育学部 准教授	Rb_2MoO_4 における多形転移とソフトフォノン	T1-1:HQR
留野 泉	秋田大学教育文化学部 教授	秩序型ペロブスカイト $\text{CaCu}_3\text{Ti}_4\text{O}_{12}$ のフォノン	T1-1:HQR
留野 泉	秋田大学教育文化学部 教授	立方晶 PbTiO_3 のフォノン	T1-1:HQR
留野 泉	秋田大学教育文化学部 教授	NaNbO_3 の非弾性中性子散乱	T1-1:HQR
留野 泉	秋田大学教育文化学部 教授	NdCoO_3 の格子ダイナミクス	T1-1:HQR
安井 幸夫	名古屋大学理学研究科 助教	イリジウム酸化物 Sr_2IrO_4 、 BaIrO_3 の磁性	T1-1:HQR
大山 研司	東北大学金属材料研究所 准教授	AKANE(東北大金研：三軸型中性子分光器)IRT課題	T1-2:AKANE
秋光 純	青山学院大学理工学部 教授	幾何学的フラストレート系 $(\text{Mn}, \text{Mg})\text{Cr}_2\text{O}_4$ におけるスピン相関の次元クロスオーバー	T1-2:AKANE
藤田 全基	東北大学金属材料研究所 准教授	新規 T構造ホールドープ銅酸化物 $\text{Pr}_{2-x}\text{Ca}_x\text{CuO}_4$ における磁気相関の研究	T1-2:AKANE
藤田 全基	東北大学金属材料研究所 准教授	一枚層 $\text{Bi}2201$ 銅酸化物高温超伝導体における対角型非整合磁気励起の研究	T1-2:AKANE
平賀 晴弘	東北大学金属材料研究所 助教	反強磁性金属 $(\text{Mn}, \text{Fe})_3\text{Si}$ における高温/高エネルギー磁気揺らぎ	T1-2:AKANE
平賀 晴弘	東北大学金属材料研究所 助教	局在スピンをもつ金属強磁性体の短波長/高エネルギー域における常磁性散乱	T1-2:AKANE
飯久保 智	九州工業大学生命体工学研究科 助教	高い反強磁性転移温度をもつ鉄系化合物 TlFe_2Se_2 の中性子散乱	T1-2:AKANE
木村 宏之	東北大学多元物質科学研究所 准教授	マルチフェロイック $(\text{Bi}, \text{Eu})\text{Mn}_2\text{O}_5$ の圧力誘起磁気秩序相の探索と、結晶・磁気構造解析	T1-2:AKANE
木村 宏之	東北大学多元物質科学研究所 准教授	マルチフェロイック BiMn_2O_5 の非磁性不純物置換による強誘電性と磁性の制御	T1-2:AKANE
高阪 勇輔	青山学院大学理工学部 ポスドク相当	CrX ($\text{Cr}=\text{Si}, \text{Ge}$) のカイラル磁気構造の検証	T1-2:AKANE
高阪 勇輔	青山学院大学理工学部 ポスドク相当	MPO_4 (M : 遷移金属) のカイラル磁気構造の検証	T1-2:AKANE
松村 武	広島大学先端物質科学研究科 准教授	$\text{Ce}_{0.5}\text{La}_{0.5}\text{B}_6$ における IV 相秩序変数	T1-2:AKANE
松浦 直人	東北大学金属材料研究所 助教	高温超伝導体 LSCO の磁気励起における磁性不純物 Ni 置換効果の研究 II	T1-2:AKANE
松浦 直人	東北大学金属材料研究所 助教	高温超伝導体 $\text{Bi}2212$ の磁気励起における磁性不純物 Ni 置換効果の研究 II	T1-2:AKANE
光田 暁弘	九州大学理学研究院 准教授	極低温における単結晶中性子回折による YbPd の磁気構造決定および金属的電荷秩序の検証	T1-2:AKANE
大山 研司	東北大学金属材料研究所 准教授	40T 級パルス磁場中性子回折実験による磁場誘起多段転移の観測	T1-2:AKANE
李 哲虎	産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門 研究員	β -パイロクロアのフォノンダイナミクス	T1-2:AKANE
大山 研司	東北大学金属材料研究所 准教授	HERMES(東北大金研：中性子粉末回折装置)IRT課題	T1-3:HERMES
有馬 孝尚	東北大学多元物質科学研究所 教授	FeV_2O_4 の軌道・構造逐次相転移に伴う磁気構造変化	T1-3:HERMES
土井 貴弘	北海道大学理学研究院 助教	希土類 遷移金属複合化合物の磁気構造	T1-3:HERMES
井手本 康	東京理科大学理工学部 教授	$\text{Li}(\text{Mn}, \text{Ni}, \text{Co}, \text{Li})\text{O}_2$ 系正極材料の結晶構造および電極特性に与える部分フッ化の影響	T1-3:HERMES
井手本 康	東京理科大学理工学部 教授	$(\text{Bi}, \text{Na})\text{TiO}_3$ - NaNbO_3 - NaTaO_3 系無鉛圧電セラミックスにおける結晶構造の合成法・組成依存	T1-3:HERMES
陰山 洋	京都大学工学研究科 教授	平面四配位鉄酸化物 Sr_2FeO_3 の磁気構造解析	T1-3:HERMES

陰山 洋	京都大学工学研究科 教授	$n = 4$ 系二次元量子スピン系(CuCl)Ca ₂ NaNb ₄ O ₁₃ の基底状態	T1-3:HERMES
陰山 洋	京都大学工学研究科 教授	異常高原子価鉄を持つ(Ba,Sr)FeO ₃ の磁気構造の 解明	T1-3:HERMES
金子 文俊	大阪大学理学研究科 准教授	クラウンエーテルをゲストとする結晶性高分子包 接錯体に関する研究	T1-3:HERMES
小林 洋治	京都大学工学研究科 助教	(CuCl)LaNb ₂ O _{7-x} F _x の構造決定	T1-3:HERMES
高阪 勇輔	青山学院大学理工学部 ポスドク相当	新規カイラル磁性体 CrX (X: Si, Ge) の磁気構造 解析	T1-3:HERMES
高阪 勇輔	青山学院大学理工学部 ポスドク相当	新規カイラル磁性体 MPO ₄ (M: 遷移金属) の磁気 構造解析	T1-3:HERMES
増山 博行	山口大学理学部 教授	KDP系強誘電体の単斜晶構造と結晶多形	T1-3:HERMES
鱒 淵 友治	北海道大学工学研究院 助教	ニオブ系酸窒化物超伝導体の結晶構造における M (M=Si, Li, Mg) O 共置換効果	T1-3:HERMES
益田 隆嗣	東京大学物性研究所 准教授	アルカリ超酸化物の磁気構造	T1-3:HERMES
松川 倫明	岩手大学工学部 教授	電子ドープ型マンガン酸化物の磁化の反転と磁気 構造	T1-3:HERMES
南部 雄亮	東京大学物性研究所 助教	二層三角格子反強磁性体 Fe ₂ Ga ₂ S ₅ の結晶構造と 磁気構造	T1-3:HERMES
南部 雄亮	東京大学物性研究所 助教	新しい鉄系化合物 BaFe ₂ Se ₃ の結晶構造と磁気構 造	T1-3:HERMES
末 廣 隆之	東北大学多元物質科学研究所 助教	次世代固体照明用窒化物系蛍光体 La ₃ Si ₆ N ₁₁ :Ce ³⁺ における発光中心のサイト選択性の解明	T1-3:HERMES
田 畑 吉 計	京都大学工学研究科 准教授	新しいタイプの遍歴電子フラストレート磁性体 M3T ₃ X における磁気秩序と静的スピン相関	T1-3:HERMES
田 中 秀 数	東京工業大学理工学研究科 教授	スピン 2 の籠目格子反強磁性体 Cs ₂ Mn ₃ LiF ₁₂ の磁 気構造	T1-3:HERMES
富安 啓 輔	東北大学理学研究科 助教	水素貯蔵材料アルミニウム錯体水素化物における 水素放出過程の回折と非弾性散乱による研究	T1-3:HERMES
山 室 修	東京大学物性研究所 准教授	イミダゾリウム系イオン液体の短・中距離構造	T1-3:HERMES
八 島 正 知	東京工業大学総合理工学研究科 准教授	鉛フリー圧電体ニオブ酸銀系材料の結晶構造と誘 電性	T1-3:HERMES
八 島 正 知	東京工業大学総合理工学研究科 准教授	層状ペロブスカイト型酸化物の結晶構造とイオン 拡散経路	T1-3:HERMES
八 島 正 知	東京工業大学総合理工学研究科 准教授	格子間酸素を利用したイオン伝導性セラミックス の結晶構造とイオン拡散経路	T1-3:HERMES
八 島 正 知	東京工業大学総合理工学研究科 准教授	商用セリア-ジルコニア排ガス浄化触媒の結晶構造 と相転移	T1-3:HERMES
八 島 正 知	東京工業大学総合理工学研究科 准教授	可視光応答型酸窒化物光触媒の構造物性	T1-3:HERMES
鄭 旭 光	佐賀大学工学系研究科 教授	新しい三角格子系物質 MODX[M:Cu,Ni,Co etc; X:Cl,Br,I]の幾何学的フラストレーション磁性と 磁気構造の解明	T1-3:HERMES
李 哲 虎	産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門 研究員	鉄系超伝導体の結晶構造と超伝導の相関	T1-3:HERMES
奥 山 大 輔	理化学研究所基幹研究所交差相関物性科学研究グループ 研究員	W ドープ VO ₂ の磁気構造解析	T1-3:HERMES
辻 本 吉 廣	物質・材料研究機構国際ナノアーキテクトニクス研究拠点 博士研究員	新奇鉄酸フッ化物の精密構造解析	T1-3:HERMES
木 嶋 倫 人	産業技術総合研究所先進製造プロセス研究部門 主任研究員	リチウムイオン電池材料の粉末中性子回折	T1-3:HERMES
野 村 勝 裕	産業技術総合研究所ユビキタスエネルギー研究部門 主任研究員	白金含有ペロブスカイト酸化物の中性子回折測定	T1-3:HERMES
堀 金 和 正	東北大学原子分子材料科学高等研究機構 助手	モット絶縁体 La ₂ O ₂ Fe ₂ OCh ₂ (Ch=S,Se,Te) の結 晶・磁気構造解析	T1-3:HERMES
伊 賀 文 俊	広島大学先端物質科学研究科 准教授	近藤合金 Yb _{1-x} Tm _x B ₆ の低温磁気秩序構造	T1-3:HERMES

陰山 洋	京都大学工学研究科 教授	新規 Bi-Pd-O 系酸化物の構造	T1-3:HERMES
光田 暁弘	九州大学理学研究院 准教授	極低温における粉末中性子回折による YbPd の磁気構造決定と金属的電荷秩序の検証	T1-3:HERMES
高橋 美和子	筑波大学数理物質科学研究科 講師	層状金属硫化物 Co_xNbS_2 の結晶構造と磁気構造	T1-3:HERMES
手塚 慶太郎	宇都宮大学工学研究科 助教	クロム複硫化物の結晶構造と磁気転移	T1-3:HERMES
鄭 旭光	佐賀大学工学系研究科 教授	三角格子系水酸塩化物 $\text{M}_2(\text{OD})_3\text{X}[\text{M}:\text{Cu},\text{Ni},\text{Cu}$ etc; $\text{X}:\text{Cl},\text{Br},\text{I}]$ の幾何学的フラストレーション磁性 と磁気構造の解明 II	T1-3:HERMES
野田 幸男	東北大学多元物質科学研究所 教授	FONDER(中性子 4 軸回折装置)IRT 課題	T2-2:FONDER
笠野 裕修	山口大学理工学研究科 准教授	新規有機強誘電体の構造相転移	T2-2:FONDER
木村 宏之	東北大学多元物質科学研究所 准教授	マルチフェロイック $(\text{Bi},\text{Eu})\text{Mn}_2\text{O}_5$ の圧力誘起磁 気秩序相の探索と、結晶・磁気構造解析	T2-2:FONDER
木村 宏之	東北大学多元物質科学研究所 准教授	マルチフェロイック BiMn_2O_5 の非磁性不純物置 換による強誘電性と磁性の制御	T2-2:FONDER
鬼柳 亮嗣	東北大学多元物質科学研究所 助教	水素結合系プロトン伝導体の低温領域におけるプロ トン伝導メカニズムの研究	T2-2:FONDER
小林 悟	岩手大学工学部 助教	塑性歪みを加えた Pt_3Fe 反強磁性体における強磁 性の発現機構	T2-2:FONDER
益田 隆嗣	東京大学物性研究所 准教授	$\text{BaV}_{10}\text{O}_{15}$ の磁気構造	T2-2:FONDER
満田 節生	東京理科大学理学部 准教授	磁性イオン置換したスピンプラストレーション系 物質 CuFeO_2 の磁気構造	T2-2:FONDER
南部 雄亮	東京大学物性研究所 助教	鉄砒素化合物 $\text{Ca}(\text{Fe}_{0.7}\text{Co}_{0.3})_4\text{As}_3$ の磁気構造	T2-2:FONDER
高橋 美和子	筑波大学数理物質科学研究科 講師	二糖類水和物の結晶構造	T2-2:FONDER
高橋 美和子	筑波大学数理物質科学研究科 講師	$\text{Pt}_{(1-x)}\text{Mn}_x(x=0.11\sim 0.14)$ の規則構造と磁性	T2-2:FONDER
長谷 正司	物質・材料研究機構量子ビームセンター 研究員	磁場中弱強磁性秩序を示す $\text{Cu}_3\text{Mo}_2\text{O}_9$ の磁気構造 の決定	T2-2:FONDER
金子 耕士	日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門 研究員	β -パイロクロア化合物における非調和熱振動	T2-2:FONDER
金子 耕士	日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門 研究員	I 型クラスレート化合物における非調和熱振動	T2-2:FONDER
上床 美也	東京大学物性研究所 准教授	アクセサリ-IRT 課題	Accessory

平成 23 年度 KEK 中性子共同利用 S 型実験承認課題一覧

研究代表者	所 属	研 究 題 目	申請装置
伊藤 晋一	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 准教授	高分解能チョッパー分光器による物質のダイナミク スの研究	BL12/HRC
佐藤 卓	東京大学物性研究所 准教授		

平成23年度後期共同利用の公募について

東大物性研第1号

平成23年4月1日

関係各研究機関長 殿

東京大学物性研究所長

家 泰 弘 (公印省略)

平成23年度後期東京大学物性研究所共同利用の公募について (通知)

このことについて、下記のとおり公募しますので、貴機関の研究者にこの旨周知いただくとともに、申請に当たっては遺漏のないようよろしくお取り計らい願います。

記

1 公募事項

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| (1) 一般、スーパーコンピュータ、物質合成・評価設備の共同利用 | (平成23年10月～平成24年3月実施分) |
| (2) 長期留学研究員 | (平成23年10月～平成24年3月実施分) |
| (3) 短期留学研究員 | (平成23年10月～平成24年3月実施分) |
| (4) 短期研究会 | (平成23年10月～平成24年3月実施分) |

2 申請資格

国・公立大学法人、私立大学及び国公立研究機関（以下「大学等」という）の教員、研究者並びにこれに準ずる者。ただし、上記の者が行う大学等の研究活動に限ります。大学院学生にあつては大学等の教員の指導の下、研究を行う者。

3 申請方法等

本研究所ホームページ (<http://www.issp.u-tokyo.ac.jp/contents/kyoudou/index.html>) の募集要項を参照願います。

4 申請期限 平成23年6月13日 (月)

〒277-8581 千葉県柏市柏の葉5-1-5 東京大学物性研究所共同利用係
電話：04-7136-3484 e-mail：issp-kyodo@kj.u-tokyo.ac.jp

平成 22 年度外部資金の受入について

1. 奨学寄附金

件数	金額 (円)
17 件	48,472,193 円

2. 民間等との共同研究

研究題目	相手側機関	共同研究経費 (円)		研究担当職員
		相手側負担分	本学負担分	
燃料電池用電極材料の構造解析に関する共同研究	トヨタ自動車(株)	3,832,500		附属中性子科学研究施設 教授 柴山 充弘
散乱法によるソフトマター及び生体組織の状態解析	花王(株)	1,000,000		附属中性子科学研究施設 教授 柴山 充弘
合計		4,832,500		

3. 受託研究

研究題目	委託者	受入金額 (円)	研究担当職員
中性子散乱法によるプロトンの動的構造の解析	(独) 科学技術振興機構	15,672,800	附属中性子科学研究施設 准教授 山室 修
サブ 100 アト秒パルスの発生とアト秒時間分解分光	(独) 科学技術振興機構	5,850,000	先端分光研究部門 技術専門職員 金井 輝人
マイクロ軟 X 線発光分光法による有機薄膜・吸着分子・固体界面の解析と界面制御	(独) 科学技術振興機構	1,560,000	先端分光研究部門 教授 辛 埴
精密物性測定による鉄系超伝導体の電子状態解明	(独) 科学技術振興機構	35,100,000	新物質科学研究部門 特任講師 大串 研也
ナノブロックの構造化学的多様性による鉄ヒ化物系高温超伝導体の創製	(独) 科学技術振興機構	4,940,000	附属物質設計評価施設 教授 廣井 善二
レーザー光電子分光による物性研究	(独) 科学技術振興機構	103,350,000	先端分光研究部門 教授 辛 埴
高繰り返しレーザーによる光科学	(独) 科学技術振興機構	29,900,000	先端分光研究部門 准教授 小林 洋平
鉄系超伝導体のレーザー励起光電子分光	(独) 科学技術振興機構	10,367,500	先端分光研究部門 教授 辛 埴
高次高調波コヒーレンスを利用した分子動画像観測	(独) 科学技術振興機構	5,200,000	先端分光研究部門 准教授 板谷 治郎
真空紫外域の低次数高調波による超高速分光	(独) 科学技術振興機構	3,900,000	先端分光研究部門 助教 足立 俊輔
面内スピン角運動量移行素子におけるブリュアン光散乱法によるスピン蓄積空間分布の観測	(独) 科学技術振興機構	1,551,000	ナノスケール物性研究部門 教授 大谷 義近
短期及び長期安定度の優れた光周波数コムの開発	(独) 科学技術振興機構	6,500,000	先端分光研究部門 准教授 小林 洋平
次世代ナノ統合シミュレーションソフトウェアの研究開発	文部科学省 (科学技術振興費)	35,750,000	附属物質設計評価施設 教授 川島 直輝
原子炉型中性子小角散乱分光器群の先鋭的高度化に関する研究	文部科学省 (原子力基礎基盤研究委託事業)	24,908,923	附属中性子科学研究施設 教授 柴山 充弘
プロトン伝導体の水・プロトンダイナミクスの研究	(独) 日本原子力研究開発機構	389,897	附属中性子科学研究施設 教授 吉澤 英樹
高効率固体オシレータの開発	ギガフォトン(株)	3,900,000	先端分光研究部門 准教授 小林 洋平
合計		288,840,120	

後援団体
 応用物理学会
 日本化学会
 日本物理学会

**協賛
 企業**

(株)アールアンドケー、(株)アカリク、(株)朝倉書店、アジア物性材料(株)、アステック(株)、
 (株)アド・サイエンス、NOK(株)、オックスフォード・インストゥルメンツ(株)、(株)オフイーラジャパン、
 関西電子(株)、グラスマンジャパンハイボルテージ(株)、(株)コンカレントシステムズ、
 (株)ジエック東理社、(株)情報数理研究所、真空光学(株)、(株)ソーラボジャパン、竹印刷(株)、
 ツジ電子(株)、(有)テクサム、(株)トヤマ、(株)トライ・エスイー、日本カンタム・デザイン(株)、
 (有)ハヤマ、フォトテクニカ(株)、(株)フォルテ、フジトク(株)、マイサイエンス(株)、
 (株)メジャージグ、(有)モノテック、ヤトロ電子(株)、(株)ユニソク、ロックゲート(株)

支援団体
 京都大学基礎物理学研究所
 材料科学技術振興財団
 東京大学物性研究所
 東北大学金属材料研究所

講義

大貫 惇睦 (大阪大)
 重い電子系の物理

小形 正男 (東京大)
 相関の強い電子系における超伝導

奥村 剛 (お茶の水大)
 印象派物理学で描きだす身近に潜むシンプルな物理：
 しずく、あわ、真珠、クモの巣を題材として

小澤 正直 (名古屋大)
 量子測定理論入門

張 紀久夫 (大阪大)
 物質の電磁応答：マイクロからマクロへ

若林 克法 (物質・材料研究機構)
 グラフェンの電子物性とナノスケール効果

サブゼミ

岩井 伸一郎 (東北大)
 光誘起相転移の超高速ダイナミクス

木下 俊哉 (京都大)
 非平衡1次元ボース気体

小林 研介 (京都大)
 人工量子系の物理の展開：量子情報技術から
非平衡統計物理学まで

水島 健 (岡山大)
 超流動体、並びに超伝導体における量子渦の物理

吉野 元 (大阪大)
 ガラス・ジャミング転移と剛性の発生

渡辺 澄夫 (東工大)
 構造の観測における物理学と数学

分科会招待講演

井口 敏 (東北大)
 ベリー一位相による異常ホール効果 - $\text{Nd}_2\text{Mo}_2\text{O}_7$ を例に -

楠瀬 博明 (愛媛大)
 連続時間量子モンテカルロ法で探る近藤格子の物理

佐々木 聡 (大阪大)
 実験で捉える輸送現象
 ~超固体中の質量輸送・電子のスピン輸送~

平原 徹 (東京大)
 非磁性体表面の磁性現象

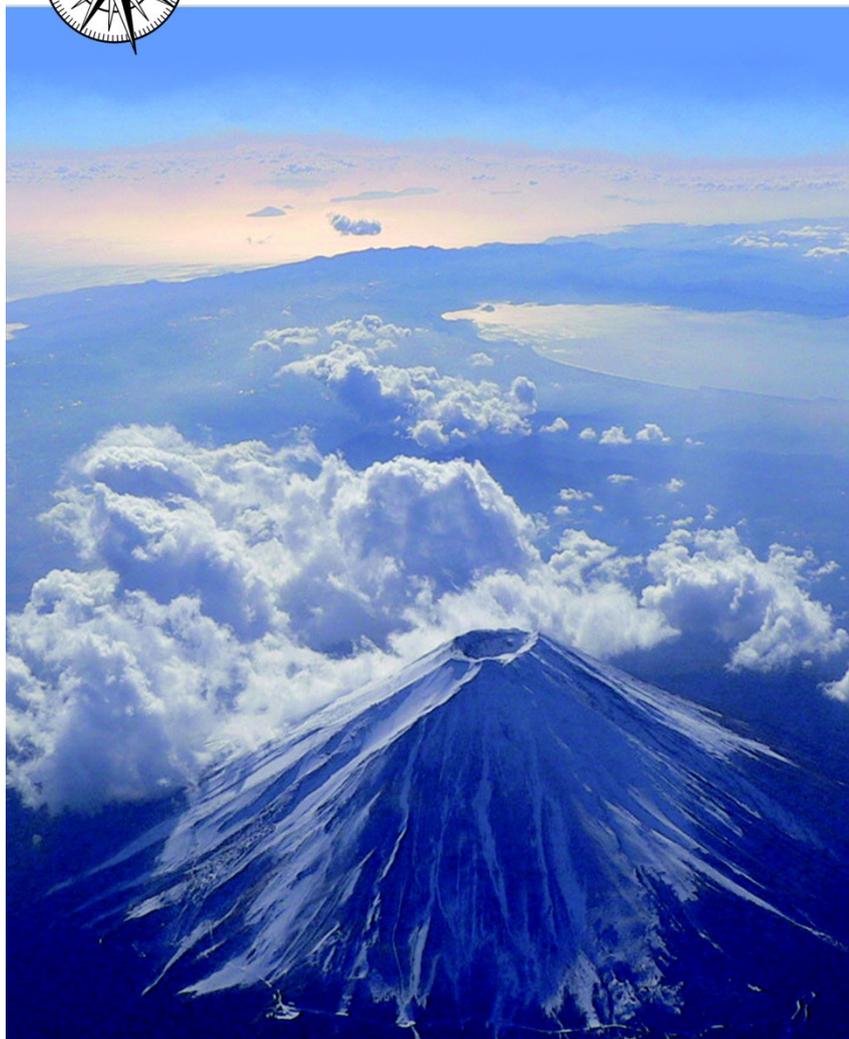
栢富 龍一 (東京大)
 半導体表面に形成される2次元電子系

吉岡 孝高 (東京大)
 励起子ボーズ・アインシュタイン凝縮の実験的研究

※) 敬称略, 五十音順



研究と人生の指針 -Beyond the Compass of Your Field-



第56回
物性
若手夏の学校

2011年8月1~5日
 於 ホテルエバーグリーン富士
山梨県富士吉田市

<https://cmpss.jp/> 物性若手夏の学校 検索

5月10日 参加登録をウェブ上で開始

参加定員に到達した時点で登録を締め切らせて頂きます。最終期日：6月13日

編集後記

東日本大震災において多くの人命が奪われ、未だ行方不明の方々も多数おられ、各方面に甚大な被害が生じました。ここに哀悼の意を表し、心よりお見舞いを申し上げます。

「偶然は準備のできていない人を助けない」というパスツールの名言がある。「いつチャンスが来てもそれをつかみ取れるように準備をしておこう」とポジティブに解釈されてきたと思う(セレンドイピティ)。3月11日の東北地方太平洋沖地震では、残念ながら文面通りの状況が一部で起きている。巨大地震・津波という天災、そして原発災害。当日は分子研(岡崎市)に出張中で、翌日なんとか首都圏を通過し柏に帰ることができた。3月に予定されていた共同利用は数週間延期。現在物性研は平常に戻りつつあるが、しばらく強い余震が続き本当に不気味だった。当初 M8.4(気象庁マグニチュード Mj による)と発表されていたが、後にマグニチュードの算出法がモーメントマグニチュード(Mw)に変更され Mw=9.0 になった(新聞ではどちらも M と表記されている)。20 数年前の大学時代の教科書(「放射性同位元素等取扱者必携」)を本棚から引っ張り出し、放射線科学を復習した。原発事故直後、80km 圏外へ退避すべしと某国はアナウンスしたらしいが、最近公表された SPEEDI や航空機モニタリングの図を見るとそれも納得できる。また、東大柏キャンパスで測定された空間ガンマ線量率が日々公表されており本郷・駒場と比較して少し高めだと思っっているが、これは福島原発からのプルームと降雨を含めた移流拡散シミュレーションで理解できるらしい。

物性科学者の一人として、今何ができるのか?このままで良いのか?これから何をすべきなのか?マルクスのアフォリズムがあらためて胸をつく:「哲学者たちは世界をただ様々に解釈してきただけである。しかし肝要なのはそれを変えることである」。“3.11”の衝撃はとても大きい。

吉 信 淳

物性研だよりの購読について

物性研だよりの送付について下記の変更がある場合は、お手数ですが共同利用係まで連絡願います。

記

1. 送付先住所変更(勤務先⇔自宅等)
2. 所属・職名変更
3. 氏名修正(誤字脱字等)
4. 送付停止
5. 送付冊数変更(機関送付分)

変更連絡先: 東京大学物性研究所共同利用係

〒277-8581 柏市柏の葉 5-1-5

メール: issp-kyodo@kj.u-tokyo.ac.jp